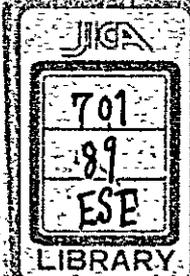


業務資料 № 459

アルゼンチン漁業移住関係調査報告書

1978年2月

国際協力事業団



國際協力事業団

入 84.4.11
日

701

登録No. 03338

89
ESE

77/0
420

ま え が き

200カイリ元年といわれた昨年6月、訪日中のゲバラアルゼンチン海洋庁長官は、「南緯40度以南のパタゴニア沖漁場開発のための日本漁民引受け計画」（6か所、12,000人）を明らかにし、併せてわが国の協力を要請した。

これらを踏まえ当事業団では、ブエノス・アイレス支部を通じ52年8月22日～9月7日に亘り同国の漁業移住関係調査（陸上部門）を実施したが、本書はこれを取りまとめたものである。

今回、ゲバラ海洋庁長官が提示した日本漁民引受け計画は、個人ベースによる単なる漁業移住にとどまらず、漁場開発をとおして産業の振興、インフラ関連の整備を含めた地域開発が目的であり、わが国の大規模な開発協力が必要となることが予想される。

このため、昭和53年度には当事業団より専門調査団を派遣し、本格的な調査を行うこととしている。また、日水、大洋、日魯、極洋、宝幸の大手水産五社の日本連合によるパタゴニア沖の試験操業（2月28日から1年間、10万トン）、漁業資源の調査結果等によって、今後のアルゼンチン漁業移住に関する動向も明らかになるものと思われる。

本書がアルゼンチン漁業移住業務の参考資料として活用願えれば幸いである。

昭和53年2月

移住調整部長

JICA LIBRARY



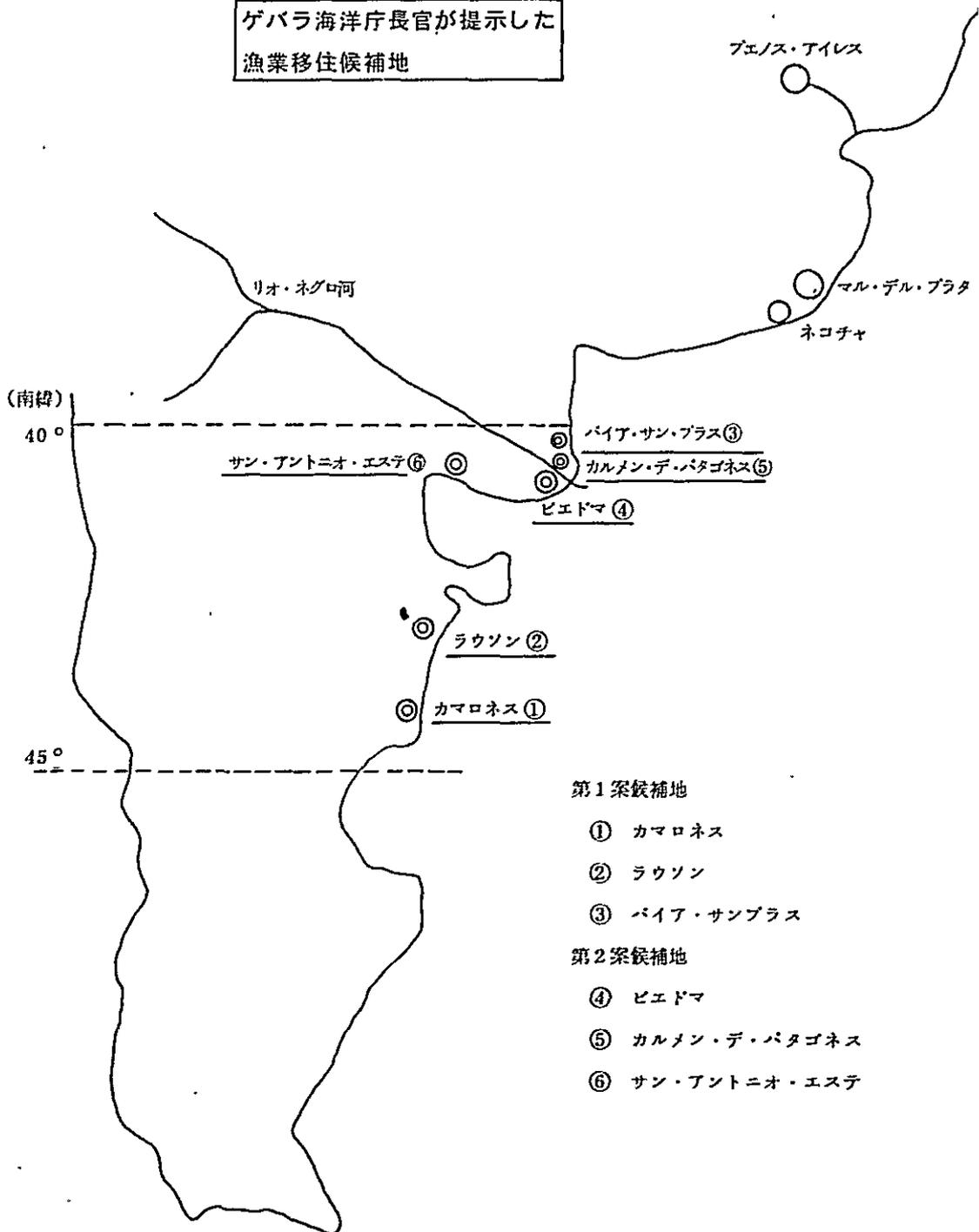
1054061[5]

目 次

I	調査日程及び用務	5
II	対象地区の一般概況	6
	1. バイア・サン・プラス	6
	2. カルメン・デ・バタゴネス	10
	3. ピエドマ	14
	4. サン・アントニオ・オエステ及びエステ	17
	5. カマロネス	23
	6. ラウソン	28
III	漁業移住候補地における漁業の概況	33
IV	アルゼンチンにおける水産業の現状	34
	1. 主な漁業基地、及び地区別漁船の種類、隻数	34
	2. 漁獲量及び漁の種類	36
	3. 流通状況	41
	4. 漁船の乗組員及びその収入	42
	5. 月収3万ドルを目標とした場合の経営規模	43
	6. マルデルプラタにおける主要漁獲物の販売価格	46
	7. 水産物の輸出	50
	8. 主要水産物の加工施設	54
	9. 主要水産物、加工及び販売のための既存の組織の概要	55
	10. 養殖業の可能性	55
V	港湾施設、陸上加工施設等	55
	1. 漁業移住を進めるに当り、必要な諸施設	55
VI	建設、資材の価格、職種別賃金等	60
	1. 建設資材の価格	60
	2. 燃料価格	64
	3. 職種、業種別賃金	64

4. 建設機械価格	67
VII 漁業関係法規, 政府の助成措置等	68
1. 概 要	68
2. 漁業関係法規	69
VIII 日本人漁民の移住に対する漁業関係者, 関係当局等の受け止め方	72
1. 地元の住民, 漁民	72
2. 州政府関係者	73
3. 漁業関係業者	73
付 表	
資料 1. Patagones 気象統計表	76
2. Sanantnio Oeste 気象統計表	78
3. Trelew 気象統計表	80
4. Camarones 気象統計表	82

ゲバラ海洋庁長官が提示した
漁業移住候補地



1. 調査地区

フエノス・アイレス州 マル・デル・プラタ市
" バイア・サン・ブラス地区
" カルメン・デ・パタゴネス地区
リオネグロ州 サン・アントニオ・オエステ, 及びエステ地区
" ビエドマ地区
チュブー州 ラウソン地区
" カマロネス地区

2. 調査期間

1977年8月22日～9月7日

3. 調査班

フエノス・アイレス支部 職員 高 橋 武 夫
" " 波 谷 竹 彦
部 外 委 嘱 新 村 安 正

(在フ漁業会社支配人)

日程及び用務

8月22日(月)	Buenos Aires 発 Mar del Plata 着 新村氏と打合せ	同 地 泊
23日(火)	Mar del Plata 発 Carmen de Patagones 着 —	同 地 泊
24日(水)	— San Blas 地区調査	
25日(木)	Carmen de Patagones 発 Viedma 着 Carmen de Patagones Viedma 地区調査	同 地 泊
26日(金)	Viedma 発 San Antonio Oeste 着 Viedma地区漁港候補地調査 San Antonio Oeste 地区調査	同 地 泊
27日(土)	San Antonio Oeste 発 Trelew 着 Galme 漁業冷凍会社視察 San Antonio Este 地庄調査	同 地 泊
28日(日)	Trelew 発 Camarones 着 Soriano 海草加工会社 (在 Gaiman) 視察	同 地 泊
29日(月)	Camarones 発 Comodoro Rivadavia 着 Camarones 地区調査	同 地 泊
30日(火)	Comodoro Rivadavia 発 Gaiman 着 Comodoro Rivadavia 市外の Caleta Córdoba 漁港視察 Bahia Bustamante の Soriano 海草加工会社の現場視察	同 地 泊
31日(水)	— Rawson 地区調査	"
9月1日(木)	Gaiman 発 Viedma 着 —	同 地 泊
2日(金)	Viedma 発 Bahia Blanca 着 —	同 地 泊
3日(土)	Bahia Blanca 発 Mar del Plata 着 Bahia Blanca 港高地带視察 Necochea 及び Quequon 港視察	同 地 泊

4日(日) ———— 同 地 泊
 Mar del Plata 港湾地帯視察
 漁業、冷凍、輸出会社支配人と懇談、意見聴取
 日本人漁船々長と懇談、意見聴取

5日(月) ———— "
 漁業会社々長と懇談、意見聴取
 漁業関係船主組合支配人と懇談、意見聴取
 漁業、冷凍、輸出会社の工場視察

6日(火) ———— "
 Mar del Plata の漁港 漁船の種類、荷揚げ状況等視察、調査

7日(水) Mar del Plata 発 Buenos Aires 着

II 対象地区の一般概況

1. バイア・サンブラス (Bahia San Blas)

(1) 位置、所在

① 行政区分

Partido de patagones , Provincia de Buenos Aires .

(ブエノスアイレス州、パタゴネス郡)

② 経緯度

西経 62° 13' 南緯 40° 33'

③ 近傍都邑

都 邑 名	人 口	方 向、距 離	交通機関	道 路 状 態
Stroeder	約 3,500名	西北方約 72 Km	車 輛	砂利道 (概ね良好)
Camén	約 12,000名	西南方約 106 Km	同 上	砂利道 (国道3号まで約92 Km, 概ね良好)
Patagones				国道3号 (約14 Km) 舗装 良好
Bahia Blanca	約200,000名	北方約 272 Km	"	砂利道 (国道3号まで約76 Km, 概ね良好)
				国道3号 (約196 Km) 舗装、良好

④ 交通、運輸事情

交通、輸送手段としては、通常自動車、馬車が使用されている。また、Bahia San Blas の西北方約 42 Km のところにある Jose B. Casas (人口約 200 名) には、Bahia Blanca を経て Buenos Aires 方面へ、また Carmen de Patagones, Viedma, San Antonio Oeste を経て、Bariloche, Esquel 方面へ通ずる Roca 線が通って居り、鉄道便を利用することもできる。

自動車、馬車等車輛が不可欠であり、交通運輸事情は良好であるとは云えない。

⑤ その他の特記事項

Bahia San Blas は、Isla del Jabali (ハバリ島) の北側にあり、その前方面約 35 キロメートルの海上にある Isla Gama (ガマ島) 及び、その周辺に多々ある浅瀬、洲によって囲まれた同名の Bahia San Blas (サンブラス湾) に面している。

(2) 自然的条件

① 地区、近傍の地形、標高、土壤、植生等

Isla del Jabali は、Arroyo del Jabali によって、隔てられた一種の島で、幅約 3 m のコンクリートの橋によって、連結されている。この付近一帯は、標高 10 m 前後の平坦地で所々に低湿地帯、塩湖がある。Isla del Jabali は、標高 3 ~ 10 m (Bahia San Blas は 10 m 程度) 各所に砂丘が見られる。

土質は砂質土、海岸には様々な色彩をした丸っこい平らな礫が堆積している。

植生としては、半乾燥地帯に特有な丈の高い刺のある灌木林、草類 (Stipa, Poa 等) が見られる。

② 気象

Bahia San Blas についての気象統計はない。近傍の後記 Patagones の気象統計 (付表資料 1) を参照されたい。

③ その他の特記事項

なし

(3) 地区近傍の海岸、港湾施設等の状況

Bahia San Blas には海上警備隊の支所があり、前面の海上に小型船舶繫留用のブイはあるが、棧橋等港の設備はない。

Bahia San Blas (湾) は、Isla de Jabari, Isla Gama 及びその周辺に無数に散在する浅瀬、洲によって、囲まれた穏やかな湾である。Isla del Jabari の前面から外洋にかけては 10 km 以上に亘り、干潮時水深 20 m 以上ある天然の水路となっているため (但し、外洋への出口付近には水深 5 ~ 10 m のところもある) 漁船等の船舶の出入、操作、繫留等に適した条件を具えているものと考えられる。

干潮の差； 最大時期平均	1.76 m
最少	1.52 m

〔参考〕 Guevara 海岸庁長官より日本政府へ提出された対象地区に関する説明書抜萃
(以下海洋庁見解として引用する)

Bahia San Blas について

この湾は、入口が水深 0 ~ 5 m の大きな浅瀬によって殆ど閉鎖されて居り、かつその間には水深 11 m に及ぶ深い部分があるので、良く庇護された投錨地となっている。

その水面は広いので、湾内において、特定の船舶の展開を可能にする。

Puerto San Blas について

Gama 島の前面、Jabari 島の北側に所在している。吃水 12 フィート以下の船舶の操作には、支障がない。

補給に関し、ボイラー用真水は、海上警備隊支所の井戸から (1日 30 屯以上) 及び海岸付近の民間の井戸から、輸送用ランチのホースを使用して、容易に積込むことができる。

水質は飲料に適している。食糧 (肉、牛乳、食料品、パン、馬鈴薯、野菜等) の補給についても、問題はない。

漁業に関し、小鮫 (Cazon) は 9 月 ~ 11 月、ペヘレイは、4 ~ 10 月 (集中的に)、えびは 8 ~ 9 月 (小規模ではあるが) に獲れる。

その自然的条件は、遠洋漁業のための多目的港を建設するためには、理想的な場所を形成している。

(4) 社会、経済的条件

① 地区の沿革

Bahia San Blas 付近一帯は、ドイツ系ヨーロッパ人所有の Estancia (農牧場 ~ 主として麦類栽培及び牧羊) として 1800 年代末 ~ 1900 年代初頃より開発が始められたもので

主として、北欧系ヨーロッパ移民が導入され、1902年には、最初の郵便局が設立された由である。(国の経費節約のため、昨年簡易郵便局へ格下げとなった。)

現在Bahia San Blasは、一応公認港となっているが、港としての設備はなく、その機能を有していない。また特別の経済活動も行われて居らず、夏期釣場、海水浴場として賑わり程度である。

② 住民の現状

人口、約120名、その大部分は、クラブ、ホテル別荘等の管理者または、被用人、付近の農場労働者。

アルゼンチンの他の地方同様、住民は一般に純朴。新聞、ラジオ等の報道により、既に日本の漁業移住の話を知り、この地方開発のため、日本人漁民の移住を歓迎する旨の意見を述べる者もいた。

日系人の定着者はいない。

③ 公共施設

行政的には、Carmen de Patagones にあるPatagones 都役所の管轄下にある。外に海上警備隊支所、簡易郵便局(Estafeta)、救急所、小学校(生徒数13)、電気組合(夏期のみ24時間配電、その他の時期は18~23時迄配電)がある。警察なし(最寄りの警察はStroederまたはCarmen de patagones)。

その他の施設としては、自動車クラブ、釣クラブ、ホテル(4)、食料品店(3)等あり、主として夏の観光客を対象としている。

用水は井戸水を使用しているが(第1水層2~3m、第2水層14m)飲料に適している。但し、下水の設備がないため、将来人口が増加した場合は、地下水汚染のおそれがある。

④ その他の特記事項

ア. Bahia San Blasにおいては、海岸沿い大通りの一部はアスファルト舗装されて居り、別荘風の住宅クラブ等オシャレな建物もあり、一見したところ、小規模ではあるが、小綺麗な夏の海水浴場の風景を呈している。釣場として有名であり、Pejerrey、えび、Cazón(小鯨)、ひらめ、鯛、ふか等各種の魚が良く釣れる由。

イ. Isla del Jabari、及びこの付近の土地はすべて私有地で、同島においては、別荘用分譲地の造成が大々的に行われている。

2. カルメン・デ・パタゴネス(Carmen de patagones)

(1) 位置、所在

① 行政区分

partido de patagones , Provincia de Buenos Aires .

(ブエノスアイレス州、パタゴネス郡)

② 経緯度

西経 63°00' 南緯 40°48'

③ 近傍都市

都 邑 名	人 口	方 向、 距 離	交通機関	道 路 状 態
Viedma	約 25,000名 (Rio Negro を隔てて対岸、道路距離)	南方約 7 Km	自動車、 バス鉄道 船	国道3号 (アスファルト舗装、 良好)
San Antonio Oeste	約 8,600名	西方約175 Km	自動車、 バス鉄道	同 上
Bahia Blanca	約 200,000名	北方約 280 Km	同 上	"

④ 交通、運輸事情

Buenos Aires から Patagonia 南部へ通ずる国道3号線の外、Rio Negro 上流各地、Bariloche , Esquel 方面へ抜ける国道が通っている。鉄道は Roca 線 (F. C. G. R.) が Buenos Aires から Carmen de patagones , San Antonio Oeste を経て、Bariloche , Esquel 方面へ通じている。また対岸の Viedma 市には、国内空港あり、アルゼンチン航空の定期便が通っている。交通、運輸事情は良好である。

⑤ その他の特記事項

Carmen de patagones 市は、Rio Negro 河口から約 30 Km 上流、Rio Negro 州の首都 Viedma 市対岸の台地上にある。Buenos Aires 州最南端の小都市で Patagonia 南部、Rio Negro 上流、Bariloche 方面へ抜ける道路が通っている。

(2) 自然的条件

① 地区、近傍の地形、標高、土壌、植生等

Rio Negro 下流溪谷地帯の北部に広がった平坦な台地状地形を呈し、標高は 25~40 m

(Carmende patagones 市は 40m 程度)。

土質は砂質壤土、海岸付近においては各所に砂丘が見られる。

植生としては、半乾燥地帯に特有な丈の低い刺のある灌木林、草類 (Stipa, Poa 等) が多々見られる。

② 気象

後記気象統計 (付表) 参照

③ その他の特記事項

Carmende patagones は Buenos Aires 州南端部の中心地でこの地域では、麦類、牧草等の植付、牧羊、牧牛等が行われている外、自然の灌木林、湿地帯、塩湖等が散在して居り、所謂 Pampa 地方から patagonia 平原へ移行する中間の半乾燥地帯に属している。

(3) 地区近傍の海岸、港務施設等の状況

Carmende patagones は Rio Negro の河口近くにあり (約 30 Km) この地方における穀類、羊毛、皮革等の農牧産品、岩塩等の取引の中心地として、かつては海路これらの産物の積出しが行われるとともに、この地方の住民に必要な生活必需品が運ばれて来たため、港としての大きな役割を果たして来た。しかし、その後、鉄道、道路等陸上輸送の発達に伴い、船舶輸送は次第に廃れ、現在では、港としての機能は殆ど失われていると云えよう。以前使用された栈橋等も残ってはいるが、今後の使用に耐えるものとは思われない。

Rio Negro は Carmende patagones 付近において干潮時 5 ~ 10m の水深を有するところもあるが、河口は土砂が堆積して浅瀬が形成されているため、干潮時水深が 1m 以下となる場所もある。

また、Rio Negro の河口北部の海岸は砂質の台地で (高さ 3 ~ 5m)、その下に砂浜状の波打際が延びて居り、干潮時水深 1m 以下の浅瀬が各所にある。

Rio Negro の水量; $1.000m^3 / \text{秒}$

河口付近における干満の差;

最大時期の平均 $3.35m$

最小時期の平均 2.44

〔参考〕 海洋庁の見解抜萃

Carmen de patagones ~ Viedma について

Rio Negro 左岸、河口から約17マイルのところに所在する。港の前面、河口対岸には Viedma 市がある。

河の水深が、吃水8フィート以上の船舶の出入を許さないため、航行は事実上、漁船のみに限定されることとなる。

船舶のため安全な投錨地を有する自然の港となっているが、そこでの干満の差は著しい。主として、穀類、羊毛、皮革の輸送に使用される。港内では吃水11フィート(3.3m)迄の船舶は留まることはできても、これらの船は河口の外にある浅瀬のため入港することができない。棧橋は5つある(総延長120m)。河岸には碇泊用の設備がない。

Carmen de patagones 及び Viedma においては船舶用必需品は容易に手に入り、また、食料品はすべて豊富である。

Roca 線(鉄道)の棧橋には、鉄道用ディーゼル・オイルのタンクがある。Sio. p. の棧橋には、その船舶のために使用されたディーゼル・オイルの貯蔵設備がある。幾つかの石油会社の給油所(Y P M もその一つ)があり、燃料の補給ができる。Rio Negro は、河口をも含め、干潮時でも水がある。港から1kmのところ100万ℓの能力ある貯水池はあるが、給水設備はない。

24時間前に予告すれば、多量の肉、牛乳、野菜及びパンの入手が可能である。夏には果物が豊富にある。

前 Rio Negro 航行局が使用した長さ40m、吃水5フィート級船舶の修理台はあるが工場はない。

干満の差；最大時期平均 3.2m

最小 " 2.2 "

浅瀬；5/7 浅瀬の必要あり

南緯40°以南に位置してはいるが、漁業移住の適地ではない。

(4) 社会、経済的条件

① 地区の沿革

1779年、スペインの探検家 Francisco de Viedma の一行が海路この地に到着、現在の Carmen de patagones 及び Viedma の基礎を築いたもので、以来略200年の歴史を有する。

1827年、ブラジルからの侵寇艦隊を撃退した史実は有名である。

牧羊、麦類の栽培を中心とした農牧業の中心地として発達して来たもので、現在では、この地方における、商工業の中心地でもある。

② 住民の現状

人口約12,000名、住民の多くは、農牧業、商工業従事者、及びこれらの被雇用者。

アルゼンチンにおける他の地方同様、住民は一般に純朴、また、日本人に対し、特別の関心を持っている様子はみられない。

日系人の定着者は見当たらない。

③ 公共施設

行政、司法機関としては、郡役所、治安判事事務所、警察、州政府関係事務所、税務署、郵便局、電信、電話局等がある。

教育施設としては、州立幼稚園(2)、公・私立小学校(4)、公・私立中・高校(4)、州立高等師範(1)があり、地元の子弟のみならず、Rio Negro州等他州からの入学者も多い。

医療機関としては、公立病院(3)の外、個人の専門医が居る。

金融機関としては、ナンオン銀行、及びBs. As. 州立銀行の支店がある。

産業団体としては、Rio Colorado 開発公団 (CORFO) の外、商工業組合(1)、農牧関係協同組合(2)等がある。

その他の団体としては、スペイン人、イタリア人等の共済会(3)、運動、社交クラブ(10)等、各種の団体がある。

電気は対岸のViedma市にある発電所より、供給を受け、用水は、州の水道局がRio Negroの水を浄化して給水しているが、その量は何れも豊富である。

④ その他の特記事項

Carmen de patagones の周辺地区は、牧畜、麦類の栽培が行われている私有地が多く、地価も可成り高い。

因みに、Monte (手の加えられていない土地) の場合

約40,000ペソ/ha

Campo limpio (伐採された土地) の場合

約80,000ペソ/ha

Con Riego (水利権付) の場合

約 200,000 ペソ / ha

また、同市における建築費は、住宅の場合 100,000 ペソ / m²

倉庫等簡易建築の場合 40,000 ペソ / m² 程度である。

3 ビエドマ (Viedma)

(1) 位置、所在

① 行政区分

Departamento de Adolfo Alsina, provincia de Rio Negro

(リオ・ネグロ州アドルフォ・アルシーナ郡)

② 経緯度

西経 63°00' 南緯 40°50'

③ 近傍都邑

都 邑 名	人 口	方 向、 距 離	交通機関	道 路 状 態
Carmen de patagones	約 12,000名	北方約 7 Km	自動車、バス、鉄道 給	国道3号 (アスファルト舗装良好)
San Antonio Oeste	約 8,600名	南方約 170 Km	自動車 バス、鉄道	同 上
Bahia Blanca	約 200,000名	北方約 285 Km	同 上	#

④ 交通、運輸事情

Buenos Aires から patagonia 南部へ通ずる国道3号線 (アスファルト舗装) の外、Rio Negro 上流各地、Bariloche, Esquel 方面へ抜ける国道が通っている。鉄道は Roca 線 (F. C. G. R.) が Buenos Aires から Viedma, San Antonio Oeste を経て Bariloche, Esquel 方面へ通じている。また Viedma 市には、国内空港あり、アルゼンチン航空の定期便が通っている。交通、運輸事情は良好である。

⑤ その他の特記事項

Viedma 市は、Rio Negro 河口から約 30 km 上流の同河下流溪谷地帯（幅約 8～10 km）にあり、対岸の Carmen de patagones とは、対照的に低地で、標高は 6 m 程度である。

Rio Negro 州の首都で Rio Negro 上流地方 Patagonia 南部 Bariloche 方面へ抜ける道路、鉄道等交通の要衝に当る。

(2) 自然的条件

① 地区、近傍の地形、標高、土壌、植生等

Rio Negro 下流溪谷地帯（同河に沿って、幅約 8～10 km）溪谷の両側（南北）は高さ 20～40 m の台地となって居り、その台地上に所謂 Pampa 並びに Patagones へ通ずる平原が広がっている。下流溪谷地帯の標高は 4～10 m である（Viedma 市は 6 m 程度）。

土壌は Rio Negro の沖積した砂質壤土。

植生としては、乾燥～半乾燥地帯に特有な丈の低い刺のある灌木林、草類（Stipa, Poa 等）が見られる。

② 気象

Viedma 市には、測候所がないため、前記 Patagones の気象統計（付表）を参照。

③ その他の特記事項

Viedma 市は州政府の所在地である外、Rio Negro 下流溪谷地帯における農牧業の中心地でこの付近では、灌漑により、果樹、牧草、野菜の栽培、牧羊等が行われている。Rio Negro 溪谷の南側は所謂 Patagonia 台地を形成して居り、風強く、乾燥した不毛地である。

(3) 地区近傍の海岸、港湾施設等の状況

Rio Negro は Viedma 付近において、干潮時 5～10 m 程度の水深を有するが、河口は土砂が堆積して浅瀬を形成しているため、干潮時水深が 1 m 以下となることもある。

河口付近における干満の差；

最大時期平均	3.35 m
最少	2.44 "

州政府漁業、海洋資源局長（Director de pesca y Recursos Maritimos）の説明によれば、

漁港建設のためには、Rio Negro 河口より約 15 km 上流の同河南岸に適地があり、そこでは、干潮時ですら 4～7m の水深がある由であった。但し、同地区は、目測によれば、対岸の島状を呈している中洲迄の距離 500～600m 程度、水深の深い部分は Rio Negro 南岸寄りの一部であり、流れも可成りあるよう見受けられるので、漁港建設の適地であるかどうかについては疑問がある。

また、州政府企画庁顧問 (Asesor de Secretaria de planeamiento～退役海軍大佐) によれば、Viedma 市を含め、Rio Negro 河口一帯は浅瀬が多く、港建設のためには、不適である。むしろ、南部 Patagonia 開発の拠点として、連邦政府、州政府とも重点を置いて居り、既に深水港の建設が始まっている San Antonio Este を選ぶべきであろうとの意見であった。

(参考) 海洋庁見解については、前記 Carmen de patagones の項、参照。

(4) 社会、経済的条件

① 地区の沿革

1779年、スペインの探険隊 Francisco de Viedma の一行が海路この地に到着、現在の Viedma 及び Carmen de patagones の基礎が築かれたことについては、前記 Carmen de Patagones の項において述べた通り、両市とも Rio Negro を隔てて向い合っている関係上、Patagonia 地方における農、牧業の中心地として両々相俟って発展して来たものである。

1878年 Carmen de patagones は Buenos Aires 州内に編入され、また、1884年 Viedma は Rio Negro 州の首都となり、現在に及んでいる。

② 住民の現状

人口約 25,000 名。州政府の所在する官庁都市であり、住民の多くは、官・公庁従業員、商工業者またはその従業員、農牧業者等。

アルゼンチンにおける他の地方都市同様、住民は一般に悪ずれしていない。また日本人に対し、特別の関心を有している様子は見えない。

Viedma 市 外、および IDEVI の植民地 (後記参照) には、日本人数家族が入植し、農業に従事している。

③ 公共施設

公的機関としては、行政・司法等州政府関係諸機関の外 (軍事政権下にあり州議会の機能

は停止)連邦判事事務所、郵便局、電信・電話局、水道局、水・電力局、灌漑局、道路局、労働・福祉局等の国家機関、市役所、治安判事事務所、警察等がある。

教育施設としては、公・私立小学校(11)、公・私立中・高校(5—内商業2、工業1)の外、警察学校、体育専門学校、Comahue 大学分校等がある。

医療機関としては、公・私立病院(3)、診療所(3)の外、個人の専門医がおり、薬局(6)もある。金融機関としては、国立のナンオン銀行、不動産抵当銀行、開発銀行の各支店の外、Rio Negro 州立銀行、私立のRio Negro、Neuquen 銀行等がある。

Viedma市は、Rio Negro 下流農・牧地帯(果樹、野菜、牧草、牧羊等)の中心地であり、付近には織物工場(羊毛加工)トマト加工工場、果物、野菜の乾燥工場、酪農工場(各1)等の農畜産加工工場の外、煉瓦工場(10)もある。

また、市内には、1,200軒に及ぶ商店、20以上の運動、社交クラブあり、映画館も4軒ある。

電気は国営の発電所があり、Viedma市のみならず、対岸のCarmen de patagones市へも供給している。用水は国営の水道局がRio Negroの水を浄化し、給水している。その量は何れも豊富である。

市内における建築費は、住宅の場合100,000ペソ/ m^2 程度である。

④ その他の特記事項

Viedma市付近ではI D E V I (Instituto de Desarrollo del Valle Inferior del Rio Negro~Rio Negro 下流溪谷開発公団)の手により、約80,000haの農・牧植民地が建設されつつある。同植民地はRio Negro 沿いに東西約100km南北約8kmに及ぶもので、主としてB I Dの資金を導入し道路、整地、灌漑施設等の工事を行っている(内、約15,000haは既に完成、内外人の入植が行われている)。

Rio Negro 流域の農業開発は(主としてリンゴ、ブドウ、桃等の果樹栽培)Gral. Roca, Cipolletti, Neuquen 等の上流地方において、最初に着手され逐次下流に向って、これが進められて来た関係上、下流の農業開発は上流に比べ可成り遅れている。

しかし、このI D E V Iの植民地が完成すれば、この地域の農業開発に大きな役割を果たすものと思われる。

4 サン・アントニオ・オエステ及びエステ (San Antonio Oeste 及び Este)

(1) 位置、所在

① 行政区分

Departamento de San Antonio, Provincia de Rio Negro

(リオ・ネグロ州 サンアントニオ郡)

② 経緯度

	西 経	南 緯
San Antonio Oeste	64° 57'	40° 44'
" Este	64° 44'	40° 48'

③ 近傍都邑

都 邑 名	人 口	方 向、 距 離	交通機関	道 路 状 態
Viedma	約 25,000 名	東方約 175 Km	自動車 バス、汽車	国道 3 号 (アスファルト舗装良好) 鉄道 (ROCA 線)
Puerto Madryn	約 12,000 名	南方約 268 Km	自動車 バス	国道 3 号
Trelew	約 43,000 名	" 318 "	同 上	"
Rawson	約 10,000 名	" 335 "	"	"

④ 交通、運輸事情

San Antonio Este は、Oeste の東側、San Antonio 湾を迂回した対岸にあり、陸路約 60 Km の距離にある。

San Antonio Oeste には、Buenos Aires から Bahia Blanca, Viedma 等を経て、Patagonia 南部へ通ずる国道 3 号線の外 Bariloche, Esquel 方面へ抜ける国道が通っている。また鉄道は同じく Buenos Aires から、Bahia Blanca, Viedma 等を経て、Bariloche, Esquel 方面へ抜ける Roca 線が通っており、空港はないが (最寄りの空港は Viedma) 交通、運輸の便は比較的良好と云えよう。

⑤ その他の特記事項

漁業移住の候補地として、申出のあった場所は San Antonio Este であり、Oeste から陸路湾を迂回し、約 60 Km の距離にある。また、同地においては、目下深水港を建設中である。

(2) 自然的条件

① 地区近傍の地形、標高、土壌、植生等

San Antonio Oeste 及び Este 周辺地区は、漠とした所謂 Patagonia 平原である。(San

Antonio Oeste は標高約 1 2m) 。

海岸地帯であるため、土壌は砂質土で Este 付近には大きな砂丘が見られる。

この付近の植生としては、Patagonia の乾燥地帯に特有な強靱な草類 (Stipa, Poa 等) が多く、また処々に丈の低い刺のある灌木もみられる。

② 気 象

後記、気象統計表 (付表) 参照。

③ その他の特記事項

San Antonio 地区の面している San Matias 湾においては、かつては、天然のかき、帆立貝等が豊富にあったが、商業的に乱獲されたため (かき ; 1930~40年代, 帆立貝 ; 特に 1968年)、資源保護の見地より、現在では全面的にその採取が禁止されている。

(3) 地区近傍の海岸、港施設等の状況

San Antonio 湾は Golfo San Matias の北西部に所在する小さな湾である。San Antonio Oeste は湾内の西側に突出した部分を占めて居り、Este の方は湾の南側に突出した半島の端にある (Punta Villarino 地区を指す)。Este においては、現在多目的な深水港の建設が行われているが、住民はいない。

Oeste は漁港として、Galme S/A という漁業、冷凍会社 (後記参照) 専用の漁船用波止場があり、海上警備隊の支所もある。

San Antonio 湾における干満の差は大きい時で 7~9m に及ぶと云われ、干潮時湾内の大部分は乾上ってしまう。このため、Oeste 港の港としての機能を損う大きな原因となっている。一方、Este においては、その前面、湾の入口付近から外洋にかけて干潮時ですら水深 10~20m 以上に及ぶ天然の水路があるので、Este の深水港建設は、この部分を利用して行われているものである。

San Antonio 港における干満の差 ;

最大時期平均 7.6 2 m

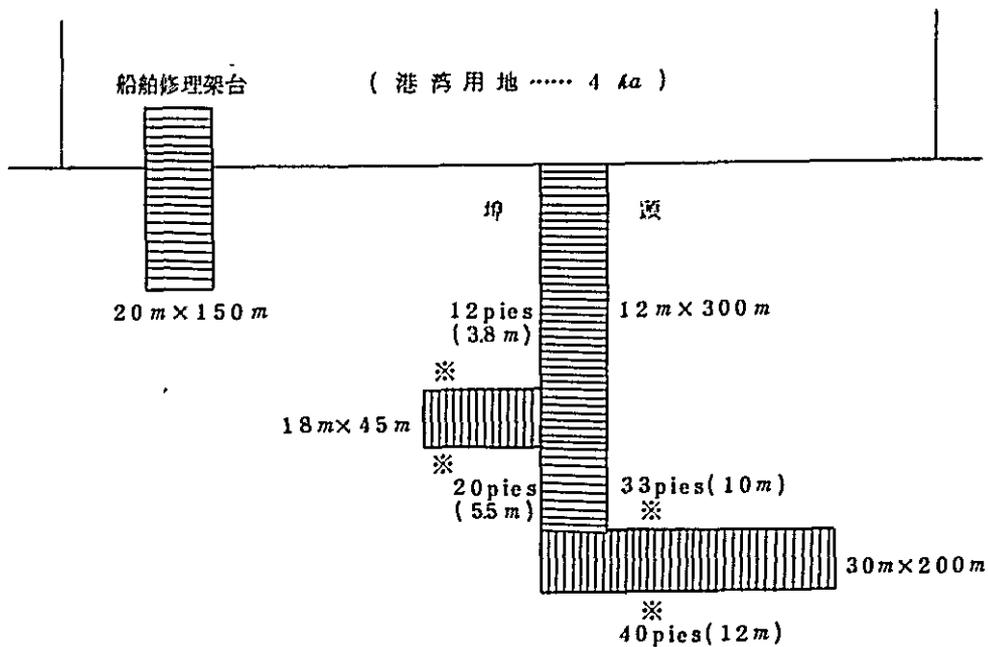
最少 5.0 0 m

Este 港建設計画の大要は次の通り

工 期 ; コンクリート埠頭 2 年、浮棧橋 1.5 年

所要資金 ; 1 2 百万弗

資金負担 ; 国 50% , 州 50%



註1.現在Oeste～Este間の連絡道路(約6.0km)を短縮するため、干潮時を利用し、湾内の横断、道路(約3.0km)を建設する計画がある。

2.州政府漁業海洋資源局長(Director de pesca y Recursos Maritimos)の話によれば、漁業移住地建設の場合、港湾施設や敷地の関係上、Esteの半島内にこれを設けることは、無理であり、Este港より4.0km以上離れた東北部の地域がその対象地となろうとのことであった。

[参 考] 海洋庁見解抜萃

San Antonio Oeste について

San Antonio Oeste 港のある湾の反対側には、外航船用港の建設計画があり、既に工事が始まっている。この工事は、3年間で完了する見込である。この港は、漁業活動の必要性を充足するために重要な基本施設を提供することとなる。総合的な漁業活動は、港

の完成を俟って開始されることゝなるが、これらが完全に実施されるまでには5年以上を要するであろう。

San Antonio Oeste 迄は、陸路略々30～40kmの距離にある。

当初、港は商船を受け入れるに足る水深なく、また、その設備もないであろう。一方、漁獲物についてみた場合、国内市場における吸収能力は10～20%程度であるので、その大部分は輸出に向けざるを得ないことゝなる。この場合の外国向け積出しは、Bahia Blanca 港（陸路約280km）またはBuenos Aires 港（陸路約980km）から行われることゝなるが、かくするときは二重の運賃がかゝりコストが割高となる。

漁業移住の可能性は大きくない。

(4) 社会、経済的条件

① 地区の沿革

San Antonio Oeste では、1905年、羊毛等Patagonia地方の産物を奨出するため（主としてBuenos Aires，ヨーロッパ向け）港が開かれた。

1925年Buenos Aires からBahia Blanca，Viedma等を経て、San Antonio Oeste に至る鉄道が開通したため（Roca線～F. C. G. R.）港としての機能は次第に衰退したが、以後鉄道を中心に発達を遂げたものである。このため、鉄道の修理工場、鉄道病院等も建設されている。

② 住民の現状

人口約8,600名。住民の多くは官公署、鉄道修理工場、漁業、冷凍会社、魚介加工工場等の従業員、または商工業、運輸業等の従事者。

アルゼンチンにおける他の地方同様、住民は一般に純朴。また、日本人に対し、特別の関心を有している様子はみられない。

同地には、唯一の日本人として、西村善盛氏一家（3名）が居住している。同氏は日本水産出身の戦前移住者で（約40年間在住）Mar del plataにおいて、漁船の船長として、活躍していたものであるが、数年前より、同地へ転住、Galme 漁業冷凍会社において漁網の手入れ、補修に従事している。

③ 公共施設

公的機関としては、郡役所、治安判事事務所、警察、海上警備隊支所、郵便局、電信・電話局、水道局（州）、道路局（国）等がある。

教育機関としては、小学校(4)、普通及び工業高校(各1)がある。

医療施設としては、国立の鉄道病院、私立病院の外、個人の専門医も居り、薬局(3)もある。

金融機関としては、国立のナンオン銀行、開発銀行の支店、及びRio Negro 州立銀行の支店がある。

主な産業としては、漁業及び冷凍(Galme社)、Marisco(魚・貝類)の加工、魚の塩蔵等水産加工業の外、鉄道の修理工場、製鉛工場等がある。目下Soda Solray 工場の建設が決定しており、魚粉製造工場についても、設置の必要が強調されている。

この外、試験、研究機関としては、鉱山及び地下水に関する国立の試験場(Instituto de Minería y Aguas Subterráneas)がある。

娯楽施設としては、映画館の外、運動、社交クラブ(4)があり、同市の南方約15kmのところには、立派な海水浴場(Balneario Las Grutas)がある。

発電所は1ヶ所あるが、各種工場等の増設により、電力に不足を来しているため、その拡張を計画中である。

この地方の地下水は不良で以前は飲料水対策が大きな問題であったが、最近Oeste市より約180km離れたRio Negro 中流(Choele Choel 南端のPomona)から取水するCanalが完成したため、水の問題は解決済となった。

なお、San Antonio Oeste 市内における地価は m^2 当り7,000~8,000ペソ、建築費は m^2 当り70,000~80,000ペソ程度である。

④ その他の特記事項

ア. San Antonio 地区は、Rio Negro 州における農・牧産品の積出港として、また将来のPatagonia 開発の基地として、重要視されて居り、州政府、連邦政府とも、その開発には力を入れている。

このため、水深の深いEste 地区においては、州及び国の共同事業として、多目的な深水港の建設が進められている。また、Oeste においては、大規模なSoda Solray 工場の建設が決定している。

イ. Galme S/Aについて

同社は主として、漁業、冷凍を行っている株式会社で本社及び工場はSan Antonio Oeste にある。専らGolfo San Matias の漁撈に従事し(主としてMerluza)、漁獲物は処理、冷凍後Buenos Airesへ出荷(輸出も行っている)しているが、同地区における産業の振興に

可成り役立っているものと思われた。

参考迄、同社の概要を記せば、次の通り。

資本金；30,000百万ペソ（最新式の冷凍設備を有しているが、これのみでも時価
3百万弗に上る由）

事業内容；漁撈、魚処理、冷凍、冷凍貯蔵、製氷（罐詰は行っていない）

従業員；船員60名、一般及び工場従業員140名、計200名

冷凍設備能力；

瞬間冷凍 30屯/日（-35~-40°）

貯蔵 500~600屯（-25°）

漁船；120屯(1)、80屯(2)、60屯(2)、40屯(1)、30屯(1)、計7隻所有

漁獲高（年間）；約6,700屯、内80%はMerluza, 20%は雑魚

価格（屯当り）；去年350弗、今年500弗

輸送用冷凍車；25屯積6台所有

注1 現在は息子の代になっているが、父親はスペイン人の漁師。1930年頃より同地で
て漁撈に従事。（1969年死亡）

2.以前は小工場であったが、4年がかりで現在の冷凍工場を建設、運転開始後1ヶ年経
過。

3.同社はGolfo San Matiasにおける漁撈の独占権を有している。この湾の中のMerluza
は湾内のみを回撈し、外洋のMerluzaとは交らない由。

4.同社の役員に対し、日本の漁業進出に関する意見を求めたところ、Golfo San Matias
の漁業資源には限度があり、外国の業者が乗込んで来ると忽ち資源が枯渇してしまう
恐れがあるので、日本が漁業移住を進める場合も、この付近ではなく、もっと南の処
女海域において行って欲しい、とのことであった。

5 カマロネス (Camarones)

(1) 位置、所在

① 行政区分

Departamento de Florentino Ameghino, Provincia de Chubut
 (チュブ州、フロレンティーノ・アメギーノ郡)

② 経緯度

西経 65°42' 南緯 44°48'

③ 近傍都邑

都 邑 名	人 口	方 向、 距 離	交通機関	道 路
Trelew	約43,000名	北方約260Km	自動車 バス	} 州道30号(約72Km砂利道 余り良好でない) 国道3号(アスファルト舗装、 良好)
Rawson	" 10,000 "	" 275 "	同 上	
Comodoro Rivadavia	" 82,000 "	西南方約267 "	"	

④ 交通、運輸事情

国道3号線より約72Km東南方へ入った大西洋岸に位置して居り、この間は、砂利道で(州道ではあるが、余り良好ではない)、また、Trelew, Rawson, Comodoro Rivadavia等の諸都市からは、260Km以上の遠隔の地にあり、交通、運輸の便は良くない。

⑤ その他の特記事項

州道30号の外、RawsonからCamaronesを経て、海岸沿いにBahia Bustamanteへ抜ける州道1号線があるが舗装されて居らず、道路状態は良くない。

(2) 自然的条件

① 地区、近傍の地形、標高、土壌、植生等

Camaronesの位置する大西洋岸一帯は、所謂patagonia高原(標高300~400m)を降り、海岸線に沿って広がった平地で(幅20~30Km)、標高は30~100m程度比較的起伏の多い地帯である。Camarones付近は、標高50m前後の台地状地形を呈して居り、南側は岩石の多い海岸線を形成、北側は玉砂利状の礫の堆積した海岸(浜)となっている。

この付近の土壌は砂質土で、植生としては、patagoniaの乾燥地帯に特有な草類(Stipa, Poa等)が多い。

② 気象

後記気象統計表（付表）参照。

③ その他の特記事項

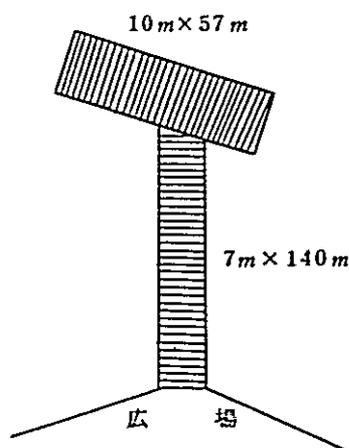
ア. Camarones は小高い台地上に位置している。その略々中央を通過して、海岸に至る大通りを中心とし、その両側に幾つもの通りがあり、公共施設、学校、住宅、plaza 等が、段々状に散在している。晴天の日には、紺碧の海が眼下に広がり、明るくて美しい町である。

Camarones には、夏期釣客が集まる外、これより約 30 km 南下した Cabo Dos Bahia (岬) には、ペンギン島、あざらしの集まる海岸があり、夏の観光地として有名である。

イ. Camarones 付近、特にこれより以南の海岸には入江が多く、また水深も深いので、局地的に見た場合、漁港等、港の建設に好適な条件を具えた場所が多々ある。しかし、消費都市から遠いこと、道路条件が悪い等の欠点もある。

(3) 地区近傍の海岸、港湾施設等の状況

Camarones は、穏かな Bahia Camarones (湾) の中にあり、下図の通り、 $10 \times 57 m$ 、 $7 \times 140 m$ 、に及ぶコンクリート製の波止場の設備がある。この近辺の海は、水深が深く、海岸より $500 \sim 1000 m$ の沖合いは、 $10 \sim 20 m$ の水深がある。干満の差は $3.5 \sim 4 m$ 程度の由。



【参考】海洋庁見解抜萃

Bahia Camarones について

Camarones は Chubut 州の大西洋岸の中間に位置し Rawson 市とは、州道 1 号線（砂利道）によって連結されており国道 3 号線とは、州道 30 号線（7.2km、砂利道、舗装の予定）によって連結されている。

Albatros 岬の西南側は水深 11m、海底は土砂状で良好な投錨地となっている。Gabiola 岬の東南 0.5 マイルの辺りも水深 8.2m、海底は土砂状で良好な投錨地である。投錨地として前者は特に有効である。港には O S O / E N E を向いた幅 10m 長さ 57m の埠頭がある。その垂直な壁面の高さは水面から 7.5m あり、最大干潮時の水深は、外側において、最少限 4.3m あり、基礎構造は高さ 2.5m 迄はコンクリート・ブロックで出来ている。標識、照明、電気配線、飲料水、梯子、繫留用杭及び鉄輪、緩衝用木材の設備がある。

埠頭に至る堤防は、幅 7m、長さ約 140m あり、その基礎構造は、両側のコンクリート壁の間に石屑を詰め、その上に厚さ 20cm のセメントを敷いたものである。

付属設備としては、堤防の付け根の部分に操車、駐車用の広場がある。照明は、高さ 8m（腕の部分 2m）のコンクリート製電柱（9本）によって行われる。

海草加工の開発に適している。使用できる官有地がある。

(4) 社会、経済的条件

① 地区の沿革

16世紀の初頭、既にスペインの探險隊が Camarones 付近に上陸、また Camarones は一時、英国人海賊の根拠地になったこともある由。

しかし、この地方が本格的に開発されたのは 1900 年代の初期、羊の飼育が始められてからである。また、Camarones においては第 2 次大戦中、肝油製造のため、鮫（Cazon）が獲られたこともある。

② 住民の現状

人口約 350 名、住民の多くは農・牧業に従事（主として付近の農牧場の労務者）または公共事務所、学校等に勤めている。

アルゼンチンの他の地方同様、住民は一般に純朴。新聞ラジオ等の報道により、既に日本人の漁業移住の話を知っており、事業団支部調査員一行が往訪した際、漁業移住者第一陣の到着と勘違いした者もいた。新しい産業を導入し、この地方の開発を促進するため、日本の漁民に是非来て欲しいとの意見を述べた者もいる。

日系人の定着者はいない。

③ 公共施設

公的機関としては、郡役所、治安判事事務所、警察、郵便、電話局、水道局（国）、州立銀行出張所等がある。

教育施設としては、州立小学校(1)があり、地元の子弟（約70名）の外、寄宿制により、近傍地区農・牧業者の子弟（約200名）を収容している。

医療施設としては、州立病院（医師1、看護婦2）の外、薬局(2)がある。

生産加工施設としては、Soriano S/A（後記参照）の事業所があり、寒天材等の海藻を採取している。

電気は住民が電気組合を組織し（全戸加入）、ディーゼルモーターにより発電、24時間配電を行っているが、その量は充分でない由。

用水は、国の水道局が管理して居り、約20km離れたところの井戸より、ポンプ・アップン給水している。水質は良好である。

その他の団体としては、運動、社交クラブ(1)があり、またホテル(3)もある。

④ その他の特記事項

ア. 生活物資、建設資材等の多くは、Trelew市から持って来られる由。

イ. Camarones 周辺地区の大部分は官有地で、市内も例外を除いては、殆ど官有地である由。

ウ. Soriano S/Aについて

Soriano 社は、Trelew市西方約17kmのところにあるGaiman市に本社及び工場を有し、海藻の採取、及び主として寒天の製造を行っている。Gaimanの工場には、従業員130名、外に2名の日本人技術者が居り、技術指導に当たっている。

同社はBahia Camarones、Bahia Bustamante等の海岸において約110kmに亘る海藻の採取権を有し、また上記2ヶ所には、事業所を設置し、尾胡のり（寒天材）、すぎのり、岩のり、マクロンティス（アルギン酸〜ベンキ用材）、ヒガルティーナ等の海藻を採取、これを乾燥している（年間10万トン位まで採取可能の由）。

また、Gaimanの工場においては、主として寒天の製造を行っている。

寒天生産量： 350～400 吨/年

販 路： 国内向け約150 吨

その他は、日本、アメリカ、ソ連、シンガポール、
ウルグアイ等へ輸出

前記事務所の内、Camaronesの方は、小規模であるが、(従業員4～5名) Bustamante
の事業所は、1955年に設置されたもので、現在では、人口約180名(30戸) 大倉
庫数棟の外、従業員住宅、教会、警官駐在所、簡易郵便局、州立小学校を有するまでに発
展して居り、私企業の事業としては、注目に値する存在となっている。

現在、常備労働者50名をもって、月300 吨(乾燥海草)程度の生産を挙げている。

6 ラウソン (Rawson)

(1) 位置、所在

① 行政区分

Departamento de Rawson, Provincia de Chubut (チュブー州、ラウソン郡)

② 経緯度

西経 65°06' 南緯 43°18'

③ 近傍都邑

都 邑 名	人 口	方 向、距 離	交通機関	道 路 状 態
Trelew	約43,000名	西方約 17 Km	自動車 バス	国道25号(アスファルト舗装、 良好)
Puerto Madryn	# 12,000名	北方約 83 #	同 上	国道25号及び3号(アスファルト 舗装、良好)
Viedma	# 25,000 #	西北方約 510 #	"	同 上

④ 交通、運輸事情

RawsonにはPuerto MadrynよりCamaronesへ通ずる州道1号線(砂利道)、Esquel,
Bariloche方面へ抜ける国道25号線(一部舗装)、Viedma, Bahia Blanca等を経て、
Buenos Airesへ(全部舗装)、またCamadro Rivadaviaを経て、Rio Gallegosへ(一部舗
装)へ通ずる国道3号線が通っている。また西方17 KmのところにあるTrelewには、国内

空港あり、アルゼンチン航空及び Austral 航空の定期便が毎日略々 2 便宛通っている。
交通、運輸事情は良好である。

⑤ その他の特記事項

Rawson 市より、Rio Chubut 河口の Puerto Rawson (漁港) までは約 9 Km あり、また Rawson 東方の海岸 (約 6 Km) は海水浴場となっている。

(2) 自然的条件

① 地区、近傍の地形、標高、土壌、植生等

Rawson 市は、Rio Chubut 溪谷の下流、河口から約 9 Km のところにある (標高約 10 m)。Rio Chubut 下流の地形は同河に沿って広がっている幅 5 ~ 6 Km の溪谷地帯で (標高 10 ~ 15 m)、溪谷の南北両側は所謂 patagonia 台地を形成している (標高; 北側は 100 m 前後、南側は 200 m 前後)。

土壌は Rio Chubut の沖積した砂質壤土。

植生としては patagonia の乾燥地帯に特有な草類 (Stipa, Poa 等) が見られる。

② 気象

後記気象統計表 (付表) 参照。

③ その他の特記事項

Rawson から上流約 50 Km までの Rio Chubut 溪谷地帯は、幅 5 ~ 6 Km に亘り、同河の水を利用して灌漑農業が行われて居り、牧草 (アルファルファ)、苜蓿 (玉ねぎ、にんにく等) 果樹 (りんご等)、ホップ等の栽培が行われている。また、牧羊を中心とした牧畜も盛んである。

同溪谷地帯の両側に広がっている patagonia 台地は反強く、乾燥した不毛地である。

(3) 地区近傍の海岸、港湾施設等の状況

Rio Chubut 河口にある Rawson 港は (Rawson 市より約 9 Km)、現在のところ漁港としては patagonia 沿岸において最も重要視されているが (漁船数 12 隻、内稼働しているもの 9 隻)、水深が浅く (干潮時 2 m 前後)、また河の出口付近は土砂が堆積して浅瀬となっているため (干潮時水深 1 m 前後) 将来漁港として大きく発展する可能性はないように思われる。河口付近

における干満の差は、2.5～4.5 m程度と云われている。

Rawson 港の対岸（南側）には、事業中止となった魚粉工場がある。敷地 1.1 ha、新式の機械設備を有し、1日の処理能力 350 吨設立後 1 年間操業したが原料入手及び栈橋（浅瀬）等に問題があり失敗した由。

また、Rio Chubut の河口を出た直ぐ南側の海岸に漁港並びに漁村を建設せんとする州政府の計画があるが、未だ計画の段階で実施の目安はたっていない模様（所要資金総額 20 百万弗）。

〔参 考〕 海洋庁見解抜萃

Rawson について

Rio Chubut 河口の条件は、現在この港における操業を非常に困難している。しかし、その地理的位置は、近海及び沿岸漁船が近くの水域において漁撈するために（特に夏及び秋の期間）非常に良い条件を具えている。

風が強いため、気象条件は Golfo Nuevo よりも劣っている。

投錨は非常に安全である。栈橋の上流、下流の河岸にも繋留することができるし、河の中流にも停泊することができる。吃水 1.8 m 迄の船は、満潮時 Rawson 迄廻行することができる。

官有地を使用することができる。

(4) 社会、経済的条件

① 地区の沿革

以前 Chubut は連邦政府の直轄領であったが、1955 年に州制が施かれ、1957 年に州憲法制定、翌 1958 年、三権の分立した州政府の諸機関が出来上ったもので、歴史的には比較的新しい州である。

Rawson 市は、州政府の所在地で、立法、司法、行政等、政府機関（目下軍事政権下にあるため、州議会は機能停止）の所在する官庁都市である。従って、人口も少く商工業等の経済活動はむしろ、約 17 km 離れた Trelew 市に依存している。

② 住民の現状

人口約 10,000 名、住民の多くは官公庁従業員及び商工業従事者。

アルゼンチンにおける他の地方都市同様、住民は一般に悪くない。また、日本人に対し、特別の関心を有している様子はみられない。

日系人としては、1家族（ア国系会社の支配人）が定着している由。

③ 公共施設

公的機関としては、州政府の所在地として、行政、司法等、各種の政府関係機関がある外、学校、病院、金融機関等、一通りの公共施設は揃っている。しかし、官庁都市として人口も少く（約10,000名）、経済的にはむしろ近傍のTrelew市（人口約13,000名）に依存していると云えよう。

Trelew市はChubut州北部、Rio Chubut流域における商工業の中心地で、この地方の産業開発を促進するため、特に工業団地（Parque Industrial）が設定され、税金免除等の特典を与えて各種の工業誘致（化学せん推、織物、金属等）に努めている。このため、人口は急速に増大しつつある。

参考迄、Rawson、Trelew両市における学校、病院等公共施設の主なものを挙げれば次の通り。

	Rawson	Trelew
小学校	6	12
中学校	3	6
大学	—	1
総合病院	2	6
銀行	2	7
テレビ局	1	1
主な運動、社交クラブ	9	12

なお、電力は最近完成したF. Ameghino発電所（Rio Chubut上、Rawsonから約150 Km上流のFlorentino Ameghinoダム）から送電を受け、豊富にある。用水はRio Chubutの水を浄化して使用しており、良質かつ豊富である。

〔注〕調査方法

上記調査作成に当っては、夫々次の通り、関係機関において聴取したところ、または関係機関より提供された資料等を基礎にした。

1. Bahia San Blas

同地のAutomobil Club Argentina（自動車クラブ）にて聴取。

2. Canmende Patagones 及び Viedma
市役所提供の資料に拠った。
3. San Antonio Oeste 及び Este
Oeste 市役所、及び Este 港建設事務所にて聴取。
4. Galme 社
同社役員より聴取。
5. Camarones
Soriano 社現場責任者（前市長）より聴取。
6. Soriano 社
同社本社、Camarones 及び Bustamante 両事業所において聴取。
7. Rawson
州政府関係官より聴取、または同政府提供の資料に拠った。
8. 地形、標高
陸軍庁 Instituto Geografico Militar 作成の地図、または観察によった。
9. 水深、干満の差
海軍庁 Servicio de Hidrografia Naval 作成の海図、または各現場にて聴取したところ
に拠った。

Ⅲ 漁業移住候補地における漁業の概況

1. サンプラス (Isla del Jabali)

サンプラスには2名の漁民がおり、小型船による沿岸漁業を行っているが、主として近隣の町、及び夏期の避暑客を相手にしているだけで見るべきものはない。

かつて Atlantico Norte という漁業会社が冷凍工場を設置しようとしたが、共済に失敗、建物の施設は残されているが、その儘の状態である。従って漁場或いは漁業の基地として可能性もあるのではないかとも思われる。18m(深度)の自然運河があり、干満の差も約1m位であり、他と比較して少い。

沿岸の魚種は

	4～10月頃	ベヘレイ
	8～9月	エビ
	9～11月	カソン(さめの小さいもの)
2. カルメン・デ・バタゴネス		漁業基地及び漁民なし
3. ビエドマ		" "
4. サン・アントニオ・エステ		現在漁業基地建設中であるが、現在のところ漁民なし。
5. ラウソン		

- (1) 漁船の数：12隻 現在9隻が操業中であり他の3隻は廃船同様である。
- (2) 船主：1隻は水産会社の所属で、他は個人の船主である。
- (3) 漁船の種類：25～32トン(12～22m)の沿岸漁船であり、手繰り操業を行っている。
- (4) 漁期：9月半ばより翌年2月末頃まで。
- (5) 魚種：主としてメルルーサ(約90%) その他メーロ、サルモン・デ・マル、車エビ等。
- (6) 操業時間：約12時間位であるが、約2時間位で満船(約17～18トン)になることもある。
- (7) 漁期における1ヶ月の操業日数：23～25日
- (8) 乗組員数：3～5人
- (9) 使用燃料：Gasoil(軽油)
- (10) 1ヶ月の船の管理費：約25万ペソ程度(約520ドル)
- (11) 船の修理：ラウソンにはドックがなく、マル・デル プラタ まで回送
- (12) 流通機構：ラウソンの水産会社(1社)に殆どが買取られるが、直接、ラウソン市、テレレウ市に出荷する場合もある由である。

水産会社は主として冷蔵、塩蔵(サルモン・デ・マル)罐詰(ベヘレイ、サルモン・デ・マル、エビ、貝等)を行っており、60トン～100トン位の処理及び保管出来る設

備がある。

冷凍設備も有しているが、現在操業はしていない。

(13) 現地漁民の生活について：

1977年10月現在ラウソン市における平均給料は約200ドル(96,000ペソ)前後であるが、漁期における漁民の1ヶ月最低の収入が約300,000ペソ(約625ドル)である。漁期以外の時期は他の仕事に従事するか、又船、網等の手入れを行い収入を得る方法がとられている。

(14) 漁船員の話によると、ラウソンの南方約40kmの地点にある Isla Escondida (漁船で、ラウソンから約1時間30分位の航程) 附近は魚(主としてメルルーサ)の宝庫の由である。

6. カマロネス

同地海岸には、10m×57m, 7m×140mのコンクリート構造の棧橋があるのみで漁民はいない。

なお、前項II「対象地区の一般概況」と重複する内容については、これを省略し前項に委ねることとした。

IV アルゼンチンにおける水産業の現状

1. 主な漁業基地、及び地区別漁船の種類、隻数

アルゼンチンの漁業は、海洋漁業(沿岸、沖合)と河川漁業があるが、国内消費の殆どが海洋漁業によって占められている。

漁業の基地としては、海洋漁業では、ブエノス・アイレス州のマルデル・プラタ、ネコチャ、バイアブランカ、リオ・ネグロ州サン・アントニオ・オエステ(但し、水産会社1社の独占)、チエブー州ラウソン、コモドロ・リバダビヤ市より10数キロ離れたカレットコールドバ、ティラデルフェゴのウスアイヤ等があるが、マル・デル・プラタが主要基地であり、全漁獲量の約90%が水揚げされている。

河川漁業では、ブエノス・アイレス州のティグレ位で他は見るとべきものがない。

上記各地区における漁船の種類及び隻数については次の通りである。(漁船は1960~65年建造が大部分)

マル・デル・プラタ(主要基地)

a. マグロ延縄漁船	300吨級	2隻	} 鋼鉄船
b. トロール漁船	700~800吨級	約10隻	

e. トロール漁船	500 吨級	約30隻	} 鋼 鉄 船
d. " "	200~300 吨級	約38隻	
e. " "	100 吨級	約70隻	
	計	約150隻	
f. 小型沿岸漁船	20 ~ 40 吨級	約220隻 (木造船)	
	合計	約370隻	

・ネコチヤ

a. トロール漁船 (冷凍船)	2500 吨級	1隻
b. " "	200 吨級	2隻
c. 小型沿岸漁船	20~40 吨級	約24隻

・バイヤブランカ

小型沿岸漁船 2~3隻 (推定)

・サン・アントニオ・オエステ

a. トロール漁船	120 吨級	1隻
b. " "	80 吨級	2隻
c. " "	60 吨級	2隻
d. 小型沿岸漁船	40 吨級	1隻
e. " "	30 吨級	1隻

・ラウノン

a. 小型沿岸漁船	25~32 吨級	12隻
-----------	----------	-----

(上記3隻廃船同好 9隻のみ採英)

・カレットコールドバ

a. 小型沿岸漁船	30~40 吨級	約4隻
-----------	----------	-----

・ウスアイヤ

a. 小型沿岸漁船		
-----------	--	--

主として、かて (たらばがて) 貝類の採取用 約5~10 吨級 約10隻

その他、亜国とスペインの合弁会社が出来て、近く約1350 吨級の冷凍船が配置される稜牙である。

以上のうち

冷凍設備のある漁船	7~8隻
冷蔵設備のある漁船	40~50隻
中遠洋 (7~10日位の航程) の漁船	80隻程度

なお、漁船の燃料はディーゼル油を用いるのが普通であるが、政令によってGas oil（軽油）を使用せねばならないことになっている

漁船の推移

年 度	船 数 隻	重 量 屯	積 載 屯	備 考
1964	346	11,254	3,326	
65	351	11,769	3,930	
66	357	12,574	4,106	
67	362	13,379	4,440	
68	363	13,525	4,491	
69	364	14,862	4,931	
70	375	16,504	5,516	
71	377	16,695	5,584	
72	384	17,775	5,957	
73	408	19,834	6,667	
74	490	30,000	10,000	

2. 漁獲量及び魚の種類

アルゼンチンにおける年間漁獲量は約30万屯であり、その中約70%がメルルーサである。

魚の種類はメルルーサの他は次の通り。

海のベヘレイ、鯛、黒鯛、コルビーナ、メーロ、ブリ、サバ、アンチョワ（すゞきに似ている）アンチョイタ（いわしに似ている）、サルモン・デ・マル、ベスカディジャ、ベスカディット（しらすの大きいのに似ているが、ベヘレイの小さいもの）メレンゲ（にしんに似ている）、タナゴ、赤エイ、ヒラメ、タラ、オオウナギ、メスケ、ボラ、アジ、本マグロ、メカジキ、キハダ、カジキマグロ、コバンザメ、サメ、等々、種類は極めて多い。

その他、魚類に属さないものでは、

イカ、ヤリイカ（ホタルイカに似ている）、タコ、小ダコ、車エビ、シバエビ、タラバガニ等々。貝類では、メヒジョン（カラス貝に似ている。）アルメーハ、チョルガ（アサリ貝に似た貝）、カラコーレ（ミヒカリコオロギ貝に似たもの）等が、一般消費に供されている。

河川の魚類は、ドラード、パティ、スルビーボーガ、河のベヘレイ、ボラ等がある。

その他、さけ、ますも釣れるが商業用ではなく、スポーツ用でそれも時期が限定されている。

なお、漁法には、能動的漁法と受動的漁法があるが、アルゼンチンの漁法の殆どが能動的漁法によっている。鱈、タラバガニ等の漁獲には、大かごを用いる、受動的漁法によっている。

能動的漁法は、機船底引網漁（巻網底引網）と、手繰り漁法によっている。

(註) 漁船の漁獲高について

- 1) 500 吨級トロール漁船 1 航海 7～10 日
約 160 吨位のメルルーサ（乗組員 16 名、その中機関部員 4 名）
- 2) 300 吨級マグロ漁船 1 航海 約 3 ヶ月位
約 100～150 吨位の漁獲（乗組員約 20 名）
- 3) 約 30 吨級漁船 1 航海 約 半日～1 日
約 15 吨位のメルルーサ（乗組員 4～5 名）
- 4) その他の 20～40 吨級の沿岸漁船はその日によって漁獲高が異なるので省略した。

1976 年度漁獲高（単位 kg）

種 類	漁 獲 高
メルルーサ	1 2 7.1 9 1.3 4 3
赤タラ	3.3 6 3.6 0 5
カタクチイワシ	1 9.2 3 8.8 8 0
タイ	5 1 4.0 2 0
カツオ	1 3.1 2 0
ボロットラ	4 7 6.3 6 5
サバ	2.9 1 6.1 2 0
コルビーナブランカ	2.4 4 5.0 2 5
小サメ	4.0 5 4.0 1 0
アジ	1.0 7 9.4 5 0
メロ（メネケの一種）	1.1 9 2.5 8 3
ベスカディニャ	1.3 6 1.8 1 2
ブリ	3 1 5.7 3 0
エイ	2.3 2 7.8 0 0
ロバーロ	2.8 8 2.4 7 5
サルモンデマル（サケの一種）	8 3 6.3 9 8
サメ	2 9 0.5 2 2
イカ	7.2 6 7.8 5 2
マグロ	2 2 1.3 0 2
合 計	1 7 7.9 8 8.4 1 2

註 上記は全体の漁獲高ではなく、主なものである。

種 類 別 漁

魚 種	年 度	1964	1965	1966	1967
Lenguado	ヒラメ	489	525	550	613
Merluza	メルルーサ	70,891	76,616	68,498	75,745
Abadejo	赤タラ	842	1,007	1,501	937
Besugo	タイ	2,152	2,090	3,113	2,539
Castaneta		6,965	30,093	68,089	33,639
Corvina Blanca		1,587	1,973	1,792	4,699
Mero	メソケの1種	926	325	1,096	1,943
Sargo		3,832	4,073	7,515	9,546
Pescadilla		2,399	2,251	2,959	6,984
Pez Palo	アナゴの1種	2,323	2,132	2,678	3,733
Rubio		23	16	50	299
Salmon de Mar	サケの1種	676	1,174	1,423	1,049
Anchoa de banco	スズキの1種	1,385	1,294	1,842	666
Cornalito	ワカサギの1種	1,936	1,352	1,136	1,217
Jurel	アジ	522	244	209	204
Palometa		131	126	222	187
Pejerreyes de Mar	ベヘレイ	629	419	826	563
Anchoita	カタクチイワシ	17,138	16,560	10,978	13,416
Atunes	マグロ	2,012	1,673	1,195	931
Bonito	カツオ	0	137	489	1,229
Coballa	サバ	9,659	9,868	16,130	11,220
Pez espada	マグロ	508	401	212	91
Pez gallo	ギンザメ	1,042	760	878	610
Rayas	エイ	1,364	1,665	2,129	3,099
Tiburones-gatuzo	サメ	3,791	3,793	3,678	5,627
Cazon Vitam	小サメ	611	818	606	563
Camaron	シバエビ	396	389	207	411
Centolla	タラバガニ	28	51	106	226
Langostino	車エビ	335	274	406	204
Calamar	イカ	505	416	1,031	2,266
Calamarete	小イカ	72	145	192	227
Cholga	カラス貝の1種	168	338	344	496
Mejillones	カラス貝	6,317	6,586	5,865	5,757
Pulpos	タコ	103	84	1,077	1,428
Vieyras	ホタテ貝の1種	754	416	236	614

獲 高 (单位 吨)

1968	1969	1970	1971	1972	1973
1,034	2,805	1,540	1,498	1,074	852
72,100	58,838	87,417	91,984	102,826	151,392
1,330	1,188	1,083	1,115	2,273	1,503
2,756	1,797	2,098	1,848	1,723	3,566
4,131	21,175	11,056	12,001	12,660	11,279
4,112	4,913	4,789	3,458	3,088	3,316
1,866	2,567	2,465	5,462	1,813	2,582
5,960	3,480	3,240	3,038	2,518	6,494
5,111	5,409	4,271	2,432	4,606	5,755
3,758	2,429	2,647	2,937	3,179	3,968
1,267	484	175	0	67	176
508	381	538	1,709	869	981
756	761	910	2,757	1,105	2,636
1,145	425	867	1,475	653	1,144
251	331	280	419	70	211
310	339	130	74	71	228
547	866	749	697	727	635
32,174	15,498	13,621	20,549	41,065	34,343
1,830	836	636	497	666	272
1,265	2,430	4,190	3,247	2,930	1,166
15,557	12,157	9,532	13,835	6,133	12,027
261	521	368	62	85	47
616	457	306	304	318	1,230
4,213	2,276	2,468	3,948	3,881	3,639
8,092	6,975	5,072	4,892	4,679	8,209
496	979	551	863	661	354
647	395	335	536	377	425
233	235	226	284	309	156
284	382	193	303	229	135
2,873	881	1,344	1,701	1,572	3,932
174	187	218	103	83	154
71	122	138	527	795	473
8,022	7,526	6,189	7,172	4,291	3,686
502	211	453	792	609	600
1,077	7,168	14,030	5,901	1,741	—

1974年以降水産関係水揚高

(単位 屯)

種類 \ 年度	1974	1975	1976	1977
メルルーサ等近海又は遠洋 魚(但しマグロを除く)	175,000	125,000	175,000	280,000
タイ	1,400	1,700		
サバ	7,800	8,900		
カタクチイワシ	30,000	19,000		
貝類(カラス貝等)	9,200	10,000		
魚粉	55,000	50,000		
コンブ類 エスクリーダ (アルガ)	3,782	3,554		
" " ウメダ	19,445	18,073		

漁獲高の推移

年 度	近海(海洋を含む)		沿 岸		合 計	
	漁獲高屯	割合%	漁獲高屯	割合%	漁獲高屯	割合%
1964年	75,797	51.71	67,791	48.29	146,588	100
65年	102,171	59.36	69,936	40.64	172,107	100
66年	135,740	64.31	75,326	35.69	211,066	100
67年	117,848	62.98	72,212	37.02	190,060	100
68年	99,643	53.27	87,409	46.73	187,052	100
69年	90,843	53.72	78,273	46.28	169,116	100
70年	106,297	57.19	79,541	42.81	185,838	100
71年	114,219	56.62	87,527	43.38	201,746	100
72年	119,408	56.48	92,010	43.52	211,418	100
73年	157,627	58.35	112,509	41.65	270,136	100
74年					250,000	

3 流通状況

- (1) 水産会社が直接、市場（ブエノス市の大市場が主力）におろし販売所を設け、小売業者に販売、又輸出を行う。
- (2) 仲買人が市場で、おろし販売所を設け小売業者に販売。
- (3) 沿岸漁船の組合が、加工を行い小売業者に直接販売。
- (4) 沿岸漁船により水揚げされた魚類は、指定された仲買人だけが購入出来る。水揚げされた魚の価格は殆ど船主が直接つける場合が多いが、組合によって一応の額が出される。
- (5) ブエノス市営の大市場に入荷された特定魚類（需要の多いメルルーサ、ベヘレイ等）のおろし価格は市役所の担当官及び水産業者の代表によって定められる。
- (6) 輸出価格については、運送等を考慮に入れた国際価格が用いられている。

(7) 主な水産会社

- ・マルデルプラタ…約15社（かん詰製造会社を含む） その中冷凍設備を有する会社10社
- ・ネコチャ…約3社 その中冷凍設備を有する会社 1社
- ・バイヤブランカ…1社 冷凍設備を有す。
- ・サンアントニオ・オエステ…1社冷凍設備を有す。
- ・ラウソン…冷蔵、塩蔵会社 1社、かん詰工場 1社、漁粉工場、冷凍工場もあるが、現在操業していない。
- ・カレッタ・コールドバ…1社
- ・ウスイイヤ…冷凍、冷蔵、かん詰等1社、冷蔵会社2社程度

但し、近い中、亜国、スペインの合併会社が設立され、冷凍、冷蔵等の工場が設置される予定。

その他ブエノス市、ティグレ市は未調査。

(8) 魚市場（国内流通機構）

ブエノスアイレス市	大市場	1ヶ所
	小市場	1ヶ所
マルデルプラタ市	中市場	1ヶ所
ティグレ	小市場	1ヶ所

- (9) 漁業組合：小型沿岸漁船の船主が加入しており、総数220隻の中190隻まで加入、20隻の船主は組合ではないが、1つのソシエダーを形成して居り10隻の船主は上記の何れにも加入していない。
他の基地には組合はない。

漁船員の組合もあるが、これは労働組合の性質のものである。

組合の正式の名称は次の通り。

Cooperativa Marplatense de Pesca E Industrializacion Limitada .

略称 Coomarpes

4 漁船の乗組員及びその収入

(1) 亜国における漁業に従事する人員

漁船員（船長、機関長を含む） 約 2,000 名

間接に漁業に従事する者 漁船員 2,000 名 × 10 = 20,000 名（推定）

(2) マルデルプラタにおける日系人漁船員の数

（他の基地には日系漁船員はいない。）

船長・（漁労長を兼ねる） 12 名（殆どが 300～500 屯級）

機関長 9 名

乗組員 約 60 名

計 約 81 名

家族数にして約 50 家族（200 名程度）

(3) 漁船員の収入について（但し操業が順調の場合）

船長 月額 約 600,000 ペソ程度（約 1,250 ドル）

機関長 # # 500,000 ペソ程度（約 1,041 ドル）

一般乗組員 # # 300,000 ペソ程度（約 625 ドル）

但し、マルデルプラタの場合、漁獲が皆無の場合でも最低月額 40,000 ペソ（約 83 ドル）

が保証されているが、他の基地ではその保証がない。

漁船員の収入については、歩合制が主であり、その配分も、メルルーサ、マグロ等の魚の種類によっても違いがあり、複雑である。税金等の義務納金も他の業種に比較して多額である。

船員法による船員の給与

1. 100%歩合制であり、政府の定めた最低月給が、たとえ、漁がなかった場合でも保証される。

2. 控除について

控除項目	船員側	雇用者側
社会保険料（フビラシオン）	11%	17%

控除項目	船員側	雇用者側
フビラショネス法令19032	1%	—
オブラソシヤル		
家族持	3%	45%
独身	2%	45%
クォターシンジカル	3%	(組合費：会社側が差引き銀行に納金)
アギナールド (INOS)	3%	35%
MDT	—	2%
家族手当	—	12% (これ以上超える 場合国によって支払われる)

※1977年11月現在 船長 100万ペソ (約1750ドル) 月額
船員 40万ペソ (約690ドル) //

5 月収3万ドルを目標とした場合の経営規模

船主が月平均約3万ドル (年間36万ドル) の漁獲物販売租収入を得る為に必要な漁獲量ならびに右の漁獲量を確保するうゑに保有すべき船について (53年2月時点)

(1) メルルーサの場合

南方 (パタゴニア地方) は、海が荒い為、約500吨級の鋼鉄船とする。その場合

- a. 1航海約7~8日 (但し漁場によっては多少の変化あり)
- b. 月 3航海は可能
- c. 乗組員数 15~16名
- d. 1航海の漁獲量 約2,500箱 (1箱50kg入)
- e. 租収入

$$3,400 \text{ ペソ/箱} \times 2,500 \text{ 箱} = 8,500 \text{ 千ペソ}$$

$$\frac{8,500 \text{ 千ペソ}}{650 \text{ ペソ/ドル}} = 13,076 \frac{9}{2} \text{ ドル}$$

従って月平均租収入3万ドルを得る為には

$$\frac{30,000 \text{ ドル}}{13,076 \frac{9}{2} \text{ ドル/航海}} = 2 \frac{29}{9} \text{ 航海が必要となる。}$$

(2) 鯛の場合

鯛の場合は殆どが沿岸漁業であり、マルデルプラタにおいては、30吨~40吨級の木造船を

使用している。この場合

- a. 1航海 約1日 及至2日
(漁場がマルデルプラタから片道約3時間のところと、8時間のところがあり)
- b. 乗組員 約6名程度
- c. 1航海の漁獲量 70~80箱程度(1箱40kg入)
- d. 粗収入

$$\begin{aligned} 8,000 \text{ ペソ/箱} \times 80 \text{ 箱} &= 640 \text{ 千ペソ} \\ \frac{640 \text{ 千ペソ}}{650 \text{ ペソ/ドル}} &= 984.\overline{61} \text{ ドル} \end{aligned}$$

従って月平均粗収入3万ドルを得る為には月平均 約10回の出漁とすると、この程度の漁船なら、約3隻が必要となる。

註 マル・デル・プラタにおいては、30トン~40トンの船はメルルーサ漁は行わない。主として、イワシ、カツオ、ブリ、鯛、ヒラメ、コルビーナ等々の沿岸漁に限られている。メルルーサ漁は、150トン~500トン級の鋼鉄船を使用している。

(3) マグロの場合

現在まで、アルゼンチンにおいて、300トン級の鋼鉄船2隻が操業していたが、1隻は経営困難な為(破産したとも言われている)。他社に売却中である。他の1隻も又、資金難の為、両船共(漁業会社は別々)岸壁に繋留中であり、操業中止の状況にある。

若し操業した場合、

- a. 漁船は300トンの鋼鉄船、はえなわ漁。
- b. 1航海 約2ヶ月半
- c. 乗組員 約20名
- d. 漁獲高 平均約150トン(不漁の場合でも約100トン)
- e. 粗収入

$$\begin{aligned} \text{平均} 800 \text{ ペソ/kg} \times 150 \text{ 千キロ} &= 120,000 \text{ 千ペソ} \\ \frac{120,000 \text{ 千ペソ}}{650 \text{ /ドル}} &= 184,615 \text{ ドル} \end{aligned}$$

- f. マグロ船を保有している、アウロラ、アウストラル社によれば、ドック入り(修理のため)もあって、年平均3回位の出漁とのことである。

参考事項

1. 船主の粗収入は、全漁獲売上高の55%～60%
従って漁船員の収入は40%～45%
2. 船主は船の維持費（油脂、修理等々）に船主の収入の約25%、但し船員の食費等は船員持ち。
その他、原価償却、保険、税金（岸壁料を含む）等に収入の約25%を見積っている。
又、事務所があれば、その維持費、社員の給料等もみななければならない。
3. 近海漁業（メルルーサ漁）を行っている漁船の殆どが、水産会社の組織であり、処理工場
冷凍、冷蔵工場を所有している。

6. マル・デル・プラタにおける主要漁獲物の販売価格

(1) 国内向け魚

漁種	日付 ドル相場	20日	21日	22日
		456ペソ	458ペソ	460ペソ
Anchoita	カタクチ イワシ	5,000.-	5,000.-	5,000.-
Brotola		10,000.-	10,000.-	12,000.-
Besugo	タイ	11,000.-	11,000.-	10,000.-
Calamarettes	小イカ	40,000.-	40,000.-	40,000.-
Carvina		4,000.-	4,000.-	5,000.-
Congrio		10,000.-	10,000.-	10,000.-
Castañeta		3,500.-	3,500.-	3,500.-
Cornalito		12,500.-	12,500.-	-
Camarones	シバエビ	46,000.-	46,000.-	50,000.-
Caracol	貝	4,000.-	4,000.-	4,000.-
Gallo	ギンザメ	5,000.-	5,000.-	5,000.-
Gatuzo	サメの1種	2,500.-	2,500.-	2,500.-
Jurel	アジ	5,000.-	5,000.-	5,000.-
Lenguado	ヒラメ	9,000.-	9,000.-	9,000.-
Langostino	エビ	140,000.-	140,000.-	155,000.-
Merluza	メルルーサ	3,500.-	3,500.-	3,500.-
Mero		3,500.-	3,500.-	3,500.-
Mejillones	カラスガイ	3,000.-	2,500.-	3,000.-
Pargo		3,500.-	3,500.-	3,000.-
Pez Palo	アナゴの1種	3,000.-	3,000.-	3,000.-
Pescadilla		4,000.-	4,000.-	6,000.-
Palometa		6,000.-	6,000.-	6,000.-
Raya	エイ	3,000.-	3,000.-	3,000.-
Salmon	サケの1種	13,000.-	13,000.-	13,000.-

の、水揚げ価格(単位箱/25kg)

1977年 9月 現在

マル デル プラタ沿岸漁業組合

23日	24日	28日	備 考	
462ペソ	462ペソ	467ペソ		
5,000.-	5,000.-	5,000.-	1. Achoa de Banco (スズキの1種), Bonito (カツオ), Abadejo (タラの1種), Cazo (小サメ), Caballa (サバ) Calamar (イカ) Cangrejo (小ガニ) Pulpo (タコ) Pejerrey (ベヘレイ) Pez Limon (ブリ) 等の魚価は時期もあり発表されていない。	
10,000.-	10,000.-	10,000.-		
10,000.-	8,000.-	8,000.-		
40,000.-	45,000.-	40,000.-		
8,500.-	10,000.-	7,000.-		
10,000.-	10,000.-	10,000.-		
3,500.-	3,500.-	3,500.-		
-	-	-		
-	-	-		
4,000.-	4,000.-	4,000.-		
5,000.-	5,000.-	5,000.-		
2,500.-	2,500.-	2,500.-		
5,000.-	5,000.-	5,000.-		
9,000.-	11,000.-	11,000.-		2. メルルーサ、ベヘレイ、カタクチイワシ、コルナリット、小イカ、イカ、タコ、コルビーナ、シバエビ、エビ、カラスガイ、ヒラメ、サルモン、タイ、等は亜国人が好んで食べる魚類である。
-	-	-		
3,500.-	3,500.-	4,000.-		
3,500.-	3,500.-	3,500.-		
2,500.-	3,000.-	3,000.-		
3,500.-	4,000.-	4,000.-		
3,000.-	3,000.-	3,000.-		
3,000.-	4,000.-	3,000.-		
6,000.-	5,000.-	5,000.-		
3,000.-	3,000.-	3,000.-		
13,000.-	13,000.-	13,000.-		

(2) 国内及び輸

魚の種類	魚			
	国内市場			
	単位	岸壁渡し価格	単位	工場渡し価格
メルルーサ 鮮魚	1箱(50 ^{kg})	ペソ = 5.23 ドル	1箱(50 ^{kg})	ペソ = 6.92 ドル
メルルーサ 冷凍				
メルルーサ フィレ			kg	ペソ = 0.55 ドル
鯛 鮮魚	1箱(40 ^{kg})	ペソ = 12.30 ドル		
鯛 冷凍				
マグロ トンボ	kg	ペソ = 1.47 ドル		
" キハダ	kg	ペソ = 1.27 ドル		
" メバチ	kg	ペソ = 1.04 ドル		
" メカジキフィレ	kg	ペソ = 1.38 ドル		
" メカジキ無頭	kg	ペソ = 1.15 ドル		
" マカジキ無頭	kg	ペソ = 0.69 ドル		
" 黒皮カジキフィレ	kg	ペソ = 0.69 ドル		
" サワラ	kg	ペソ = 0.69 ドル		
" 杉山無頭	kg	ペソ = 0.69 ドル		
アンチョワ (スズキに似ている)				
タラ				
カツオ				
エビ				
ヒラメ				
大ヒラメ				
ヒラメフィレ				
ベヘレイ				
スペインタコ				
サルモン デ マル				
ブリ				
イカ				

出 向 け 魚 価

Huemul S. A. } 調査
 沿岸漁業組合 }
 アウローラ・アウストラル社 }

(1 ドル = 650 ペソ)

昭和53年2月7日 現在

向 け		輸 出 価 格	
単 位	消 費 者 価 格	単 位	工 場 渡 し 価 格
kg	ベソ 300 = $\frac{\text{ドル}}{0.46}$	1000kg	700ドル
kg	ベソ 600 = $\frac{\text{ドル}}{0.92}$		
kg	ベソ 600 = $\frac{\text{ドル}}{0.92}$	1000kg	825ドル
kg	ベソ 2000 = $\frac{\text{ドル}}{3.07}$		
kg	ベソ 2000 = $\frac{\text{ドル}}{3.07}$		
kg	ベソ 2000 = $\frac{\text{ドル}}{3.07}$		
kg	ベソ 2400 = $\frac{\text{ドル}}{3.69}$		
kg	ベソ 1000 = $\frac{\text{ドル}}{1.53}$		
kg	ベソ 1000 = $\frac{\text{ドル}}{1.53}$	(参考) 1977年11月現在輸出価格 メルル - サ 1,000kg 530ドル メルル - サフィレー 1,000kg 830ドル 鯛 1,000kg 800ドル かわし価格は消費者価格の60% (小売業者は4割掛)	
kg	ベソ 1000 = $\frac{\text{ドル}}{1.53}$		
kg	ベソ 8000 = $\frac{\text{ドル}}{12.30}$		
kg	ベソ 600 = $\frac{\text{ドル}}{0.92}$		
kg	ベソ 800 = $\frac{\text{ドル}}{1.23}$		
kg	ベソ 1200 = $\frac{\text{ドル}}{1.84}$		
kg	ベソ 1500 = $\frac{\text{ドル}}{2.30}$		
kg	ベソ 2400 = $\frac{\text{ドル}}{3.69}$		
kg	ベソ 700 = $\frac{\text{ドル}}{1.07}$		
kg	ベソ 1000 = $\frac{\text{ドル}}{1.53}$		
kg	ベソ 1400 = $\frac{\text{ドル}}{2.15}$		

7. 水産物の輸出

(1) 魚の輸出の種類

種 類	年 度
鮮魚、冷蔵又は冷凍 (Pescado fresco, enfriado o congelado)	
乾魚 (Pescado Seco)	
塩蔵又はくん製 (Pescado Salado, en salmuera o Ahumado)	
エビ、タコ、イカ、カニ等の調理したもの (Marisco Preparado o conservados)	
海藻寒天類 (Agar - Agar)	
全魚類 (Peces)	
エビ、タコ、イカ、カニ、貝類の生、冷蔵、冷凍、塩蔵、	
海藻 (Algas Marings)	
さめの肝油 (Aceite de higado de tiburón)	
魚の油漬け (Aceite de Pescado)	
魚の生の缶詰	
エビ、タコ、イカ、カニ、貝類の缶詰 (Mariscos Conservado)	
魚の油漬け缶詰 (Conservas de Pescado en Aceite)	
魚の調理した詰め合わせ及びカピアル	
特殊に調理した、マリスコ及び詰合せ	
魚粉 (Harina de Pescado)	
合 計	

類及び輸出量 (単位 千キログラム)

1968	1969	1970	1971	1972	備考
5,828	3,199	7,723	9,888	22,998	
-	4	-	2	-	
109	253	848	761	1,883	
-	-	-		14	
47	134	105	164	14	
0.1	0.2	4	0.1	-	
180	18	437	483	-	
4,094	2,795	2,572	1,876	2,595	
-	0.9	0.9	2	3	
396	1,301	856	771	106	
37	55	0.04	0.2	0.2	
0.4	9	5	-	-	
31	24	44	3	61	
-	58	9	45	29	
37	279	135	1	214	
316	603	156	67	122	
11,075	8,734	12,894	14,063	28,019	

(2) 魚 類 の

種 類	年 度
鮮魚, 冷蔵又は冷凍 (Pescado fresco, enfriado o Congelado)	
乾魚 (Pescado Seco)	
塩蔵又はくん製 (Pescado Salado en Salmuera o Ahumado)	
エビ, タコ, イカ, カニ, 貝類の調理したもの (Merisco Preparado o Consevado)	
海草, 寒天類 (Agar - Agar)	
金魚類 (Peces)	
エビ, タコ, イカ, カニ, 貝類の、生, 冷蔵, 冷凍, 塩蔵	
海草 (Algas Marinas)	
さめの肝油 (Aceite de Hígado de Tiburon)	
魚の生の缶詰	
エビ, タコ, イカ, カニ, 貝類の缶詰 (Marisco Conservado)	
魚の油漬缶詰 (Conservas de Pescado)	
魚の調理した詰め合せ及びカビアル	
特殊に調理したマリスコ及び詰合せ	
魚粉 (Harina de Pescado)	
魚の油漬 (Aceite de Pescado)	
合 計	

輸 出 金 額 (単 位 千 ド ル)

1968	1969	1970	1971	1972	備 考
946	738	1,908	3,456	6,800	
—	1	—	4	—	
43	158	467	424	899	
—	—	—	—	—	
184	433	375	478	53	
0.6	1	1	1	—	
52	26	858	726	316	
1,129	692	703	410	756	
—	3	3	7	12	
19	23	—	—	—	
0.4	20	—	—	—	
20	23	44	3	50	
—	49	11	49	37	
20	460	279	1	5	
34	74	17	8	24	
24	122	148	126	19	
2,472	2,829	4,814	5,729	9,011	

(3) 魚の輸出先国及び輸出品 (単位 千キログラム)

輸出先国名	年度					
	1968	1969	1970	1971	1972	1973
西独 (Alemania Federal)	377	507	260	1,352	2,560	7,819
ブラジル (Brasil)	3,259	1,401	2,766	2,067	2,396	372
米国 (E.E.U.U.)	1,820	1,551	4,561	3,642	5,848	8,615
スペイン (España)	32	40	375	1,069	7,597	5,265
フランス (Francia)	—	9	125	143	572	3,152
イタリア (Italia)	469	360	313	530	1,881	3,906
日本 (Japon)	3,090	2,842	2,697	1,855	2,546	977
英国 (Reino Unido)	475	307	755	399	605	896
南アフリカ (Sudafrica)	—	2	18	24	9	25
ウルグアイ (Uruguay)	2	3	7	—	2,119	161
その他の国 (Otros Paises)	1,551	1,712	1,018	2,983	1,906	3,951
合 計	11,075	8,734	12,895	14,064	28,039	35,139

8. 主要水産物の加工施設

亜国における水産物の加工施設は次の通り。

- | | |
|---------------------|----|
| (1) 冷凍施設を有するフィレーの工場 | 35 |
| (2) 罐詰工場 | 40 |
| (3) 乾燥及び塩蔵(塩漬)くん製工場 | 50 |
| (4) 魚粉、魚油工場 | 13 |
| (5) 仕分工場 | 6 |

合 計 144工場

上記参考として

1) 工場経営者の殆どがイタリア系、スペイン系によって、占められている。

2) 1976年度の漁獲高は228,000吨であるが、その中

158,400吨が鮮魚、フィレー及び冷凍。

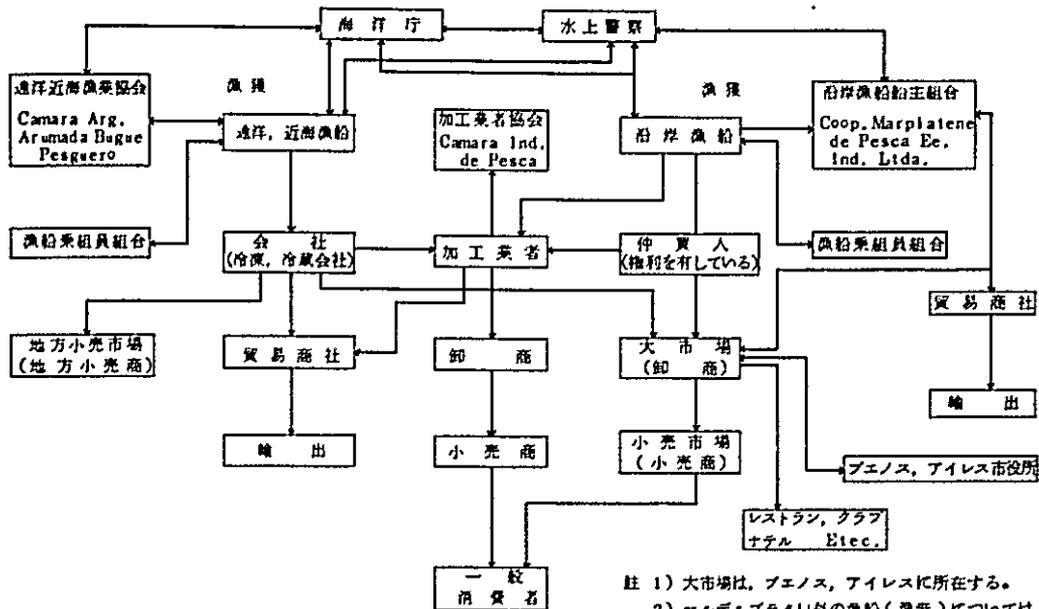
54,600吨が魚粉及び魚油として。

15,000吨が罐詰として加工された。

3) 主な水産会社については、前項〔流通状況〕参照。

4) マルデルプラタに加工業者協会 (Camara Industrial de pesca) があり、罐詰、塩蔵、くん製、魚粉、乾燥等の業者が加盟している。

9. 主要水産物生産、加工及び販売のための既存の組織概要



注 1) 大市場は、ブエノス、アイレスに所在する。
 2) マルデルプラタ以外の漁船(漁獲)については、上記組織図によらないことが多い。

10. 養殖業の可能性

亜国における水産物の養殖については、淡水魚(サケ、マス、ペヘレイ等)のみが試験的段階であり、海産物については、全く未開発である。従って養殖については、専門的な調査が必要であるが、一応養殖としては、エビ類、タラバガニ、帆立貝、かき等々が、立地条件及び国の内外の需要からみて考えられる。又、6ヶ所の漁業移住候補地では、サンブラス、サンアントニオ・エステ、カマロネスの3ヶ所が気候、立地条件等から養殖の種類にもよるが、適地と思われる。サンアントニオ・オエステ、及び南緯42.5度に位置するバルデス半島一帯には、自然の帆立貝、かき等が存在している。

V 港湾施設、陸上加工施設等について

1. 漁業移住を進めるに当り、必要な諸施設

(1) 漁船

漁業の経営には、一応大経営漁業、中経営漁業、小経営及至零細漁業に大別されるが、漁業

移住の場合、数千屯の漁船をもってする大経営漁業は一応考慮外として考えるべきであろう。

南緯40度以南の漁獲の主力が世界的にも良質なメルルーサであり、且つ資源が豊かである。従って、メルルーサを主とした漁業を考える必要がある。

中経営漁業においては、500屯級の鋼鉄漁船（第2種漁船）により、1航海7～10日位で約200～250屯の漁獲（メルルーサ）、乗組員約15～16名位の規模が考えられる。

小経営及至零細漁業においては、30～40屯級の木造船（第1種漁船）、乗組員4～5名により、1航海は日帰りの沿岸漁業とし、メルルーサ漁及び雑魚の漁獲、メルルーサにおいては1航海約2屯位の漁獲の規模が考えられる。

養殖の場合については、取敢えず、かき、帆立貝等が考えられるが、規模は、それに応じたものとする。

何れにせよ、漁撈の方式については、専門的な調査を要する問題である。

- (2) 漁港……亜国政府によって指定された6ヶ所の中、漁港といえるのはラウソンのみであるが、そのラウソンは、20～30屯級漁船がやっと入港できるような、浅瀬のチューブ河の河口にある、木栈橋式の漁港（果して移住者が使用出来るかどうか不明）である。他はカマロネスにコンクリート栈橋がある程度で、これも使用出来るか如何か不明。従って、漁船の出入、停留、停泊、漁獲物の取扱い等のため、6ヶ所の何れの場所においても漁港の施設が必要である。

基本施設としては、防波、防砂、防潮のための護岸工事及び突堤等の施設、岸壁の保留施設、漁船の繋留、漁具の格納、漁獲物の第1処理施設（トラック等の自由に出入り出来るための施設を含む）、又その施設は屋根付とすることがのぞましい。

その他、照明、衛生、水施設も必要である。

(3) その他付帯施設

- a. 船の燃料、水等の補給施設
- b. 網、魚箱の修理場（格納庫を含む）
- c. 漁船の修理場（ドック）
- d. 一般倉庫、漁船に荷入するための食糧等の補給所を兼ねる。
- e. 製氷、冷蔵、冷凍施設
- f. 加工処理場、罐詰工場等も必要であろう。

以上、(1)～(3)については、現在サンアントニオ・エステに漁業基地（漁港）を建設中であり、約3.5年後には完成される由であるが、その基地をどこまで利用出来るかが問題である。

又ラウソンにも建設費約2,000万ドルの漁港施設計画が、チューブ州によってなされているが、建設費の問題で、計画のみの段階である。

(4) 販路及び輸出のための諸施設

亜国の年間漁獲高は約30万トンであり、その中、輸出が約5万屯、国内消費が約25万屯位である。

亜国の内の消費（年間1人約100キロ）に比し、魚の消費（年間1人約4.5キロ）は極く僅少であり、今後魚の奨励等の啓蒙があったとしても、亜国の習慣或いは肉の価格と魚肉の価格の経済的比較等もあって、今後消費がのびる期待は薄いと言える。

従って販路を日本を含めた諸外国に対する輸出に求めなければならない現状である。その上、国内消費には、地元の水産業者との競合もあり、従来の例からみても、相当の抵抗があることも考えなければならない。

販路の主力を輸出に求めるとすると、保存のための冷凍及び罐詰工場の施設の他、冷凍船（大型）が横づけになる桟橋、又冷凍運搬車等も必要となり、そのための道路の整備も行わなければならない。特に、サンブラス、カルメン・デ・パタゴネス、カマロネスは街道から、土、或いは砂利道であり、距離も長いので、国家の手で補修舗装等の工事を行わなければならないと思われる。

(5) 漁民定着のための諸施設

亜国より指定された漁業基地は、何れも過疎地帯であることは前述した通りであり、この過疎地帯に定着し、前記の一定した操業のためには、どうしても、集団的な漁民の移住の方式をとらざるを得ないであろう。

集団の規模によって若干の違いはあったとしても、それに要する住宅、水設備、電気、道路等の建設、環境の整備、防風林の植林等も行わねばならないことになろう。

又、教育、通信、治安、医療等の外、生活必需品の供給施設、それに娯楽面にも充分考慮を払う必要がある。

即ち、漁村に必要な一切のものを整備せねばなるまい。

(6) 漁民の農家兼業について

パタゴニヤ地方は、温帯と寒帯の中間的気候であるが、雨量が少なく、しかも風が強い。従って農業適地とは言えない。牧畜についても羊が主力で、次に馬の頭となっているが、肉牛の

放牧は殆ど見られない。

現在パタゴニア地方の牧草がINTAによって研究されてはいるが、充分とは言えない。

従って、パタゴニア地方の野菜、果物、穀類の殆どが、他州より運搬されているのが現状である。

しかし、問題は水であるので、充分の水が供給出来れば、農業の可能性なしとは言えない。

従って、漁民の農家兼業については、先ず最初、自給自足出来るような体制にすることが考えられる。殊にパタゴニア地方は青物がどうしても不足するので、先ず考えられるのは、水の関係もあって、小規模の温室栽培(ウスイヤ等ではとり入れている)を行うことが良いのではないかと思う(トマト、チサ等々)。次に食肉及び乳の供給のため、山羊を飼育、その他羊(パタゴニアの羊は良質)、馬、それに酪農用牛、又鶏等の飼育も、兼業として充分出来るものと思われる。

(7) 漁業基地(Rawson)を仮定した場合

多少重複するが、更にRawson(南緯43度20分、経緯65度00分)を漁業基地と仮定すれば、次の通りである。但し、漁民の家族数によって、変化があることは云うまでもない。

ア. 単位を50家族の漁業移住とした場合の基地構成人員推定

(1) 移住者家族人員 50家族 × 4人 = 200人 — ①

(2) 亜国人漁船乗組員 現行は外国人25%

亜国人75%

但し、交渉により外国人50% (日本人)

亜国人50%として

$50/2 \times 2$ (単身を含めて) = 50人 — ②

(3) 漁業従事者(マルデルプラタの列をとる)

$\{ 50 \text{ (日本人漁民)} + 50/2 \text{ (亜国人漁民)} \} \times 8人 = 600人$

$600人 \times 2人 \text{ (家族構成-独身を含む)} = 1,200人$ — ③

(4) その他に従事する家族 50家族 × 4人 = 200人 — ④

合 計 ①+②+③+④ = 1,650人

イ. アに対する施設

- (1) 住宅 約600戸（亜国人の住宅及び店舗等も含む）
- (2) 公共の建物、警察官駐在所、水上警察駐在所、電信、電話、無線、郵便局、気象観測所、診療所、公民館（町役場、及び集会所を含む）、学校（小学校及び中学校の分校）、公共スーパーマーケット、給油所等々。
- (3) 以上に伴う水、電気、下水、ガス、電話施設及び付帯設備。
- (4) 道路の舗装及び街路樹の植樹。
- (5) 環境上の為、公園等の施設及び防風林の植樹。
- (6) その他の必要施設。

ウ. 港務施設

- (1) 防波、防砂、防潮の為の鉄筋コンクリート工事による突堤（工事規模等については専門的技術による）
- (2) 漁船の着船、保留、停泊、漁獲物処理のための岸壁

以上は、6ヶ所の候補地において、基地として、絶対の必須条件である。港の総合的施設については、商港と漁港の併用港とする。

(8) その他の事項

ア. ドック建設について

干満の差を利用して建設するドックは、（満潮の時にせきとめる方法）最大2,000吨級の船が入るような規模とする。マルデルプラタ、ネコチヤ、バイヤブランカ等所属の船の中年間200隻がドックを必要としているが、亜国においては、ドックが不足しており、2年目に船体の検査があるので、船主が困っているのが現状である。従って6ヶ月、6ヶ月と船体の検査を延ばしているのが実情で、極めて危険な状況にある。

イ. 日本からの技術指導について（マルデルプラタからの要望）

- (1) 鯛、かつおの資源調査、資源保護、増殖等の指導
- (2) かつおを獲る技術が不足しているので、その指導
- (3) かつお節の製造
- (4) いか釣について

現在、マルデルプラタのいかはメルルーサの縋にかゝったもので、損傷、鮮度等に問題がある。

ウ、1977年10月28日に国立漁業開発研究所が法令により発足した。これは、亜国領海内の漁業資源の調査にあたるものである。海洋庁漁業課に一応所属するもの、独立した機関として、庁外におかれている。

予算はいわゆるINTA方式によるもので、魚の輸出額に対するパーセントによる。

VI 建設資材の価格、職種別賃金等

1. 建設資材の価格

価格単位：ペソ

52年9月現在

種 別	単 位	価 格	備 考
接合材			
生石灰 (ペラ)	屯	21,233	何れもブエノスアイレス市における価格
ねり石灰	"	18,000	
セメント (国産)			
ポートルランド	袋	941	
白	屯	68,847	
石膏 (国産)			
白	屯	25,885	
黒	"	25,615	
土、砂、石類			
粘土	m ³	735	
陶土	"	8,135	
砂 (国産～小粒)	"	2,090	
" (～中粒)	"	3,136	
" (ウルグァイ産～大粒)	"	4,764	
玉砂利	"	7,308	
煉瓦、瓦等			
普通煉瓦	千個	24,800	
空洞 (8×15×20cm)	"	25,135	

空洞ブロック		
7×20×40cm	1個	104
10×20×40 "	"	150
15×20×40 "	"	219
20×20×40 "	"	276
瓦		
	千枚	73,071
タイル (国産、15×15cm)	m ²	1,782
床用煉瓦 (20×20cm)	千個	45,520
歩道用セメント板 (40×60cm)	m ²	1,725
ガラス製モザイク		
標準色	m ²	3,248
特別色	"	6,496
アスファルト製屋根材		
20m ² 1号	巻	5,401
" 2号	"	6,633
" 3号	"	8,087
耐火材		
耐火煉瓦 (煙突用)	個	232
" (家庭用)	"	232
耐火土 (煙突用)	kg	30
耐火土 (家庭用)	"	30
耐火セメント (一般用途)	"	133
" (特殊用途)	"	168
金属材料		
釘 (2 ¹ / ₂ ±50mm、2.5 ¹ / ₂ ±64mm)	kg	319
" (3 ¹ / ₂ ±76mm、5 ¹ / ₂ ±126mm)	"	307
針金 №10	"	288
14	"	300
16	"	308

鋼鉄針金 (1000m/巻)			
高抵抗用	巻	16,401	
中 "	"	14,248	
有刺鉄線 (No.125 40/kg/巻)	"	14,629	
鉄板 (2インチ×3/8インチ)	kg	258	
アングロ鉄 (1インチ×1/8インチ)	"	288	
銅管 (5/8×0.8mm)	"	1,624	
鉄管 (2インチ)	m	3,072	
鉛管	kg	651	
はんだ (錫33%)	"	5,031	
波形とたん (No.2'4)	"	558	
鉄板 (No.16)	"	377	
アルミ板 (1.5mm)	"	1,226	
銅板 (1.5mm)	"	1,683	
ステンレス鋼板 (1.5mm)	"	1,299	
錠GH (真鍮ボックス80mm)	個	11,840	
錠 (並、屋内ドア用)	"	2,450	
木 材			
ブラジル松			
板材 (1インチ×3~9インチ)	m ²	3,810	
梁材 (厚さ3インチ)	"	4,119	
ベニヤ板 (厚さ15mm)	"	4,005	
モザイク及び石材			
花崗岩モザイク (20×20cm)	m ²	1,550 ~3,030	
" (25×25cm)	"	1,530 ~2,980	
" (30×30cm)	"	1,935 ~3,380	
石灰岩モザイク (20×20cm)	"	1,320 ~1,645	
歩道用モザイク (20×20cm)	"	1,155 ~1,440	
花崗岩台石 (10×30cm)	"	353 ~ 505	

石灰岩台石 (10×30cm)	m ²	368 ~ 403
花崗岩特製台石 (10×30cm)	"	1,285 ~1,550
階段用花崗岩化粧石	"	11,000 ~12,800
鉄筋コンクリート用鉄棒 (並)		
直 径 6mm	kg	269
" 8 "	"	264
" 10 "	"	261
" 12 "	"	257
(鉄筋コンクリート用鉄棒)		
直 径 14mm	kg	257
" 16~25mm	"	253
浴室用器具		
浴槽 (バス)	個	41,422
塗 料		
水溶ペンキ (白) 4kg	袋	690
ガラス		
透明 (2重)	m ²	3163
" (3重)	"	4,618
すりガラス	"	2,355
針金入りガラス	"	7,298
電気用材料		
管 (16mm)	m	313
電線 (1,000ボルト—15mm)	"	3,751
スイッチ (5アンペア)	個	214
安全スイッチ (20アンペア)	"	6,468
モーター (10HP、1450r. p. m.)	"	207,072
ポンプ (20,000ℓ/h.)	"	225,983

エレベーター 10階用、積載量500kg ブエノスアイレス市役所規格に基づく	一式	5,192,400
--	----	-----------

田 上記はアルゼンチン建設協会資料による。

2. 燃料価格

価格単位：ペソ

52年9月30日現在

種 別	単 位	価 格	備 考
ガソリン (特)	ℓ	135	
" (並)	"	110	
石 油	"	65	
ガス・オイル	"	65	
ディーゼル・オイル	"	46	
フュエル・オイル	Kg	26	
石 炭			
Rio Turbio 渡し (特)	Ton	15,940	
" (並)	"	15,340	
Rio Gallegos 渡し (特)	"	17,915	
" (並)	"	16,940	

田 上記は経済省発表による。

3. 職種、業種別賃金（基本給）

単位：ペソ

52年9月現在

区 分	取 工	労 務 者	備 考
職種別 (ブエノスアイレス市)			時間給
左 官	188	161	
大 工	162	136	

電 気 工	188	161	
鍛 冶 工	188	161	
パ ン 職	159	138	
ベ ン キ 職	188	161	
ラ ジ オ 職	202	141	
仕 立 職	221	174	
織 物 工	151	142	
印 刷 工	179	134	
水 番	202	141	
靴 工	151	124	
(平 均)	(180)	(147)	
業種別(全国)			
食 品 工 業			
食 料 関 係	174	157	
肉 "	184	152	
牛 乳 "	152	130	
飲 料 工 業			
ブドウ酒醸造	175	168	
タ バ コ 工 業			
紙 卷 タ バ コ	139	136	
織 物 工 業			
羊 毛	150	147	
棉	153	143	
履 物、衣 料 工 業			
履 物	145	124	
洋 服	175	147	

木材工業 (除家具)			
木 材	162	136	
製 紙 工 業			
製 紙	155	150	
印刷、出版工業			
印 刷	181	130	
皮革工業 (除履物)			
皮 革	192	146	
ゴム製品工業			
ゴ ム	187	149	
化学工業			
化 学	156	135	
非金属鉱物加工業 (除石油、石炭関係)			
陶 器	203	159	
モザイク	166	153	
ガラス	118	112	
金属工業			
冶 金	204	111	
運輸工業			
自動車関係	211	163	

田 上記は、経済省統計局資料による。

4. 建設機械価格

52年11月1日現在

種 別	価 格	備 考
ブルドーザー		Tractor de Carriles
Caterpillar D 8 K	245,715 弗	アメリカ製
" D 7 G	170,348	"
" D 6 D	109,790	"
グレーダー		Motor niveladora
Caterpillar 1 6 G	216,735 弗	アメリカ製
" 1 4 G	132,904	"
" 1 2 0 B	75,460	ブラジル製
積載機 (大型シャベル付)		Cargador de Ruedas
Caterpillar 9 8 0 B	183,280 弗	アメリカ製
" 9 6 6 C	151,475	"
" 9 5 0	49,700,000 ^{ペソ}	アルゼンチン製
" 9 3 0	83,430 弗	ブラジル製
" 9 1 0	56,000	日本製
スクレーパー		Traila Autocargadora
Caterpillar 6 2 7 B	265,215 弗	ブラジル製
" 6 2 3 B	262,315	アメリカ製
" 6 2 1 B	212,690	ブラジル製
ドレッジ・ライン		Excavadora
Caterpillar 2 4 5	276,000 弗	アメリカ製
" 2 3 5	167,000	"
" 2 2 5	111,000	"
積載機、掘削機付トラックター		Pala Cargadora y retro excavadora
Fiat 4 6 0 0 E-3 5 0 1	19,300,000 ^{ペソ}	アルゼンチン製

Fiat 4600E-2501	15,978,000	ペソ	アルゼンチン製
トラクター			Tractor
Fiat 125 C. V. (馬力)	15,501,000	ペソ	アルゼンチン製
" 105 "	11,211,000		"
" 86 "	8,906,000		"
" 68 "	7,713,000		"
" 58 "	6,967,000		"
" 45 "	5,749,000		"
トラック			Camion
Fiat 165馬力	14,312,000	ペソ	アルゼンチン製
Ford 140馬力 8.3 吨積	12,706,000		"
" 140馬力 6.1 "	10,800,000		"
" Pick-up, 120馬力	4,711,000		"

(注) 上記は各社にて聴取したところによる。

Ⅶ 漁業関係法規、政府の助成措置等

1. 概 要

(1) 船籍

亜国における船舶所有者は、種類を問わず、船籍を亜国国籍として登記せねばならない。

(注) 5～6年前より、外国(スペイン、フランス、ドイツ、ポーランド、オランダ、イタリア、ベルギー、ギリシャ、日本等)より、約130～140隻の中古漁船が亜国に入港したが、現在いずれも国籍変更手続き後、操業している。

(2) 船員の資格

1) 船長及び機関長等は亜国国籍のある者、又はそれを取得した者に限る。

2) 船員の資格取得手続きは次の通り

(1) 亜国永住身分証明書(セードラ等)

(2) 無犯罪証明書

- (3) 健康証明書（身体検査表、血液、尿検査）
- (4) 予防接種証明書（ツベルクリン反応検査等）
- (5) 水泳、ボートの実地試験証明書（水上警察が実施する。）
- (6) 乗船する漁業会社と船長の申請書

以上を水上警察に提出する外、水上警察が指定する学校（ブエノスアイレス市、マルデルプラタ市、パイヤブランカ市、ロサリオ市に所在する。）にて船舶法、船員一般常識等について1年間修得し、年2回の試験に合格することを要する。

(3) 船員手帳の無効

1年間の中、180日の乗船履歴のなかった者の船員手帳は無効となる。但し再申請することが出来る。

(4) 外国人（永住権を有しても亜国籍をもたない者）の乗船の割合について

1隻の総乗組員数の25%（4分の1）を限度として外国人の乗組を認める。

田 マルデルプラタの漁港を中心として、約80名の日本人が漁船員として漁業に従事しているが、その殆どが亜国籍を取得しているので、外国人としての取扱いを受けていない。

(5) 操業規則

- 1) 沖合トロール（主として手繰小型船）の操業期間を24時間、48時間、72時間の3種類として船体を黄色に塗装する。
- 2) 近海トロール、及び遠洋トロール並びに延縄船（主としてメルルーサ、マグロ漁等、中型大型）は操業期間の制限は別に定めていないが、毎日定期的に水上警察に対し、当日の位置、航海の状況等を報告せねばならない。船体を赤色に塗装する。

(6) 漁価について

価格統制は設けず、自由相場とする。

2. 関係法規

当国における漁業関係法規は未だ整理、統合されるに至って居らず、連邦政府の定める法令（Ley, Decreto）、規則（Reglamento）、決議（Resolución）の外、関係各州においても必要

に応じ各種の法令、規則等を公布しているのに、漁業関係法規は広範、多岐に亘っている由であるが（海洋庁法務部にて聴取）、本報告においては、これらの内般も基本的、かつ不可欠と考えられる下記法令のみを収録することとした。

1. 漁業に関する法律（Ley 17,500～1967年10月25日公布）

この法律は、

- (1) アルゼンチンの領海内における海洋資源の取扱いとその開発（第1条～2条）
- (2) 漁業開発のために導入される機械、設備に対する輸入税の免除（第3条）
- (3) 漁業、水産加工関係事業に従事する企業等に対する諸税金の減免（第5条～8条）
- (4) 漁業開発を促進するための助成融資（第9条～10条）
- (5) 漁業関係法令に違反した場合の罰則（第12条）

その他について規定しているが、上記の内、(2)、(3)、(4)等に関する条項は法律第19,000号により、また(1)及び(5)に関する条項は法律第20,136号により改訂され、夫々独立した法律となっている。従って、現在この法律は、漁船に対する燃料の免税を規定した第4条を除いては、殆ど改訂されたこととなる。

2. 漁業、水産加工関係事業に従事する企業等の振興に関する法律（Ley 19,000～1971年4月20日公布）

主として、漁業、水産加工関係事業に従事する企業等に対する諸税金の減免、並びにこれらに対する助成融資について規定している。

3. 同上の法律施行に関する政令（Decreto 439、及びDecreto 440～1971年4月20日付）

何れも上記法律第19,000号に関する施行規則で、政令439においては、漁業、水産加工関係事業に従事する企業等が税金減免等の助成措置を受ける場合の手続、所轄官署等について規定、また、政令440号においては、漁業振興に役立つ船舶、機械器具を導入する場合の輸入税等の減免、その手続、条件等について規定している。

4. 海洋資源の開発等に関する法律（Ley 20、136～1973年2月5日公布）

アルゼンチンの領海内における海洋資源（生物）の取扱いとその開発田、並びに漁業関係法令へ違反した場合の罰則について規定している。

- (注)1. アルゼンチン領海内の海洋資源は国家の所有物であり、その開発はアルゼンチンの国籍を有する船舶によってのみ行われる（但し、事前許可を要す）旨、規定。
- 2. アルゼンチンの領海は、後記法律第17,094号により、沿岸より200マイルの海域。

5. アルゼンチンの領海に関する法律（Ley 17,094～1966年12月29日公布）

アルゼンチン国の主権（Soberania）は、最大干潮時の海岸線より起算し200マイル迄の海域に及ぶ旨、規定。

6. アルゼンチンの州の領海に関する法律（Ley 18,502～1969年12月24日公布）

アルゼンチンの州の支配権（Jurisdicción）は、最大干潮時の海岸線より起算し3マイル迄の海域に及ぶ旨、規定。

田 従って、国の主権の及ぶ範囲は、3マイル～200マイルの間、197マイルとなる（第2条）。

7. 船舶、乗組員、航行、輸送、海難・事故・紛争の処理等に関する法律（Ley 20,094～1973年1月15日公布）

所謂航海法（Ley de la navegacion）と云われるもので、船舶、乗組員、航行、輸送、海難・事故・紛争等の生じた場合の処理、保険、船舶に係る債権、債務の処理、訴訟手続、国際私法と関連する問題の処理、その他について規定して居り、その内容は極めて広範囲に亘っている。

田 因みに、船長及び士官の国籍については、「生来のアルゼンチン人、アルゼンチンの国籍を選出した人、または帰化アルゼンチン人」と規定されて居り（第112条）、また船舶乗組員の割合については、「出来得べくんば全員アルゼンチン人、少なくともその75%はアルゼンチン人」とする趣旨の規定（第143条）がある。

（上記法令は、別途翻訳の予定）

Ⅶ 日本人漁民の移住に対する漁業関係者、関係当局等の受け止め方

日本の漁業移住に関する現地での受け止め方等に関し、接触した範囲での関係者の意向を要約すれば、下記の通りで、その実現に賛意を表するものと然らざるものとに、夫々次の通り大別されよう。

- 地元の住民、漁民、及び州当局等は、日本の漁民が定着し漁業に従事すれば、地元～州の産業開発に寄与することとなり、併せて在来の漁業技術の向上にも役立つこととなるので、その実現を積極的に歓迎する態度を示して居り、
- また、比較的小さな船主連中は、日本の漁業移住はアルゼンチンの漁業を刺激し、遅れた技術の改良に役立つとして、その実現に反対ではないとの態度をとっているが、
- 大手の漁業関係業者は、日本をも含め外国からの漁業進出は、アルゼンチンにおける漁業関係業者の既存の権益と競合するものとして、その実現に反対の態度をとっているよう察せられた。

1. 地元の住民、漁民

Bahia San Blas の住民

新聞、ラジオ等の報道により、既に日本人の漁業移住に関する話を知っている者あり、現在のところ、同地区は釣客等の来る小さな夏の観光地に過ぎないが（人口、僅か120名程度）、日本の漁民が来れば、新しい産業が導入され、同地区の発展に役立ち、地元が潤うこととなるから、その実現を大いに歓迎する旨の意見を述べる者がいた。魚は種類、量とも豊富の由。

Camarones の住民

Bahia San Blas の場合同様、新聞、ラジオ等の報道により、既に日本人の漁業移住の話を知っている者あり、調査員一行が同地を訪問した際、漁業移住者の到着と勘違いする者もいた。

同地区においては、現在のところ牧羊以外に産業らしいものなく（Soriano社の海草採取、乾燥場があるが、その規模は小さい）、住民の多くは付近のEstancia（農・牧場）に働く労働者か、または同地区公共事務所、学校等に勤めるもので（人口、350名程度）、この儘推移する

ときは何時まで経っても発展の可能性がないので、新しい産業を導入、この地方の開発促進に資するため、是非日本の漁民に来て欲しいとの意見を述べる者がいた。

Rawson 港の漁民

漁業移住対象地区 6 ケ所の内、小規模ではあるが漁港としての設備（但し、桟橋のみで、老朽している）を有する地区は Rawson のみで、20～30 吨級の漁船が 12 隻いるが（内稼働しているもの 9 隻～何れも老朽船）、これらの漁船の船長の一人から、日本の漁民が来れば、遅れている自分達の技術の向上に役立つ外、Rawson 地区における漁業の発展に役立つものであるから、勿論その実現を期待している旨の意見が述べられた。

2 州政府関係者

Rio Negro、Chubut 州政府、並びに市役所関係当事者からは、何れも、日本の漁業移住が実現すれば、未開発な Patagonia の地域開発、産業開発に役立つこととなるから、これを歓迎する旨の意向が示された。

特に Chubut 州においては、州政府として Rio Chubut 河口付近に大規模な漁港及び漁村建設計画を有して居り（所要資金総額 20 百万弗程度）、これを実現するため日本からの資金的、技術的な協力を得たい由であった。また、同州知事からは、天然資源局長を通じ、Chubut 州の漁業開発、遅れている漁業技術改良のため、是非日本からの漁業移住を実現して欲しい旨の伝言が特にあった。

3. 漁業関係業者

Mar del Plata において漁船々主の組織する漁業組合支配人の意見

日本の漁民の進出は、アルゼンチンの漁業を刺激し、その技術改良に役立つものであるから、これに反対する理由はない。また、外国からの漁業進出が行われた場合、どの程度まで漁獲量を増大することができるかとの当方質問に対しては、漁業資源保護の立場より見た場合、現在の漁獲量（約 300 千吨）の倍位（約 600 千吨）が限度であろうとの意見であった。

(注) 漁獲量の限度については、未だ確認されていない。資源保護の立場よりみても、3,000 千吨位までは漁獲できるとする説もある。

Mar del Plata の漁業会社社長の意見

漁業の分野で Patagonia へ進出するためには、莫大な投資を必要とするから、採算的立場か

らみると割に合わない。漁業進出の場合は、むしろ Mar dal Plata 等既存の漁業施設を利用できる場所を選ぶべきであろう。Patagonia への進出は、漁業開発ということではなく、地域開発ということを目的として行われるのであれば理解できる。また、この場合は、Patagonia 本来の資源である鉱物等の資源の開発を狙うべきであろう。

San Antonio Oeste の漁業、冷凍会社社員の意見

Golfo San Matiar は漁場として小さく、漁業資源にも限りがあるので（同社は専ら同湾において漁に従事している）、この海域へ外国からの漁業進出が行われると、忽ち資源に枯渇を来す恐れがある。この意味において、日本の漁業移住の場合も、San Antonio 付近ではなく、もっと南方の誰も手を付けていない処女海域において行って欲しい。

Mar dal Plata の漁業、冷凍、輸出会社支配人の意見

アルゼンチンの漁業資源は豊富であると云われているが、決して無限にある訳ではない。現に最近獲れる Merluza の大きさは、5～6年前のものに比べ大分小さくなっている。外国からの大規模な漁業進出が行われれば、漁業資源に枯渇を来す外、現在まで嘗々として築いて来た漁業関係機構が崩れ、国内業者が打撃を蒙る。このような結果を齎らす外国の漁業進出には反対であり、また、かゝる外国の進出を容易にする海洋庁の現政策にも反対である。また、アルゼンチンは、政変により政策が大きく変わる国であるから、この国への漁業進出に当っては、この点にも充分留意する必要がある。

(注) Mar dal Plata の漁業関係業者の中には、日本をも含めた外国からの漁業進出に対し、可成り強く反対している者がいる。これについては、先般海洋庁が日本と西独に対して許可した Patagonia 海域（南緯 40°以南）での試験操業（漁獲量：日・独各 100 千トン宛、計 200 千トン。操業期間：1 ケ年。日本側は、日水、大洋、日魯、極洋、宝幸の 5 社連合がこれに当る）の問題が影響しているのではないかと思われた。

漁船の日本人船長の意見

漁船の日本人船長としてマルデルプラタ地区で漁撈に従事している人々の意見（参考意見を含む）を列挙すれば、次のとおりである。

- a. 確定的には歓迎する。
- b. 但し、最初、漁業技術者を派遣し、よく研究の上実施するか否かを決めるべきだ。
- c. 水産会社等で反対しているのは、亜国の漁業は、イタリア及びスペイン系が殆どであり、

連帯的な組織がある。従って本質的には日本人漁民（現在漁業に就働している日本人）をきらっている傾向があることも反対する理由の一つではないか。反対している水産会社の幹部に日本の漁業状況を見せてやり、小さなことで云々するより、大きな観点に立つべきであることを理解させる必要がある。しかし組織が反対であれば、移住はむずかしい問題となる恐れがある。

- d. 亜国の漁船員は、今日迄、日本人漁船員に厳しく指導されてきており、漁船員に感謝もされていない。水産会社の中には、そういう関係もあって、日本人の漁船員に絶対の信頼をおいているものもある。
- e. 現在の亜国の漁業では、船は古いし、頑迷な組織もあって、この儘では発展ものぞまれな
- f. 亜国側の示した6ヶ所の基地は、マルデルプラタ、ネコチャ等と比較すると立地条件が極めて悪い。
- g. 前にきた日本の調査船が、パタゴニア方面は魚が少ないと発表したのは誤りではないか。調査には少なくとも1ヶ年間は充分調査すべきである。経験上からいうと、40度以南は魚の豊産であると断言出来る（但しメルルーサが主）。世界的にみても、最も豊かな漁場であるとも言える。
- h. 真空技術が悪いので、魚の罐詰類は国内消費もむずかしくしており、従って輸出は出来ない。（殊に味付も悪い。）
また、罐詰工場、水産加工、養殖（かに、えび、かき、帆立貝等）の事業も併せて考えたら良いのではないか。特に養殖については適地が多く、競合も目下のところ全くない。
- i. メルルーサ漁は、魚が30センチ以下のは全部放棄するが、それが全漁獲量の約30%に達している。
- j. 日本人漁民のもってくる漁船は、全天候型船が良い（南緯43度圏は、常に暴風圏であるといっても良い）。
- k. 水産技術全般について言えば、日本の技術より50年位遅れているのではないか。従って自分達も水産に関する研究機関を設けたいとのぞんでいる。亜国には、現在そうした機関は存在していない。
- l. 日本人漁民の船長、機関長等の資格がどうなるのか。政府対政府がやるならば、それらの点も、又反対者の点も問題がないのではないか。

氣 象 統

測 候 所 : Patagones

西 經 ; 62° 59'

		单 位	1 月	2 月	3 月	4 月
氣 温	平 均	℃	21.6	20.8	18.3	13.1
	最 高 平 均		29.1	27.5	25.9	20.0
	最 低 平 均		14.7	14.1	12.4	7.9
	最 高		40.4	40.1	37.5	31.0
	最 低		5.4	4.2	0.1	-1.4
	湿 度					
	平 均	%	45	51	61	68
風 速	平 均	Km/時	22	21	19	17
	最 高 平 均		70	85	73	86
	最 高		70	109	87	86
雨 量	平 均	mm	30	29	70	34
	平 均 降 雨 日 数		5	5	7	7
降 霜	平 均 降 霜 日 数					0.3
	平 均 降 雹 日 数		0.2	0.2	0.4	0.1
降 雪	平 均 降 雪 日 数					

計 表

資料 1

南 緯 ; 40° 47'

標 高 ; 40 m

5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	年 間
10.4	7.3	7.0	8.3	10.1	13.6	17.4	19.8	14.0
15.6	12.4	12.7	15.0	16.1	20.7	25.0	27.0	20.6
5.6	3.3	2.5	2.9	4.1	7.0	10.6	12.9	8.2
26.2	20.6	23.7	27.4	29.0	34.0	39.2	42.0	42.0
-5.8	-7.0	-8.1	-5.8	-5.7	-3.6	0.3	3.1	-8.1
7.4	7.8	7.3	6.5	6.4	5.8	5.0	4.7	6.1
2.0	1.9	2.0	2.1	2.0	2.2	2.4	2.3	2.1
9.7	11.0	7.3	11.5	9.7	10.1	9.9	14.3	9.5
10.8	12.6	9.4	18.2	11.9	11.3	11.7	15.3	18.2
4.8	3.9	2.8	2.7	3.1	3.5	2.0	2.2	4.13
9	10	7	5	7	5	5	5	7.7
3	6	8	7	5	1			30.3
0.1	0.3	0.5	0.6	0.4	0.1	0.1	0.2	3.2

氣 象 統

測 候 所 : San Antonio Oeste

西 經 : 64° 57'

		单 位	1 月	2 月	3 月	4 月
氣 温	平 均	℃	22.6	21.6	19.4	14.4
	最 高 平 均		29.7	29.2	26.5	20.7
	最 低 平 均		16.3	15.5	13.6	9.1
	最 高		41.0	41.3	37.6	32.0
	最 低		5.7	4.5	1.7	0.3
	湿 度	平 均	%	42	47	52
風 速	平 均	Km/時	12	12	10	9
	最 高 平 均		91	86	78	83
	最 高		119	113	96	100
雨 量	平 均	mm	14	24	36	24
	平 均 降 雨 日 数		4	4	4	5
降 霜	平 均 降 霜 日 数					
	平 均 降 雹 日 数		0.1	0.1	0.1	0.2
降 雪	平 均 降 雪 日 数					

計 表

資料 2

南 緯 ; 40° 44'

標 高 ; 7 m

5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	年 間
11.3	7.7	7.9	9.6	11.3	15.3	19.0	20.8	15.1
16.9	12.9	13.2	16.1	17.7	21.7	25.4	27.4	21.5
6.6	3.4	3.3	4.0	5.9	9.0	12.4	14.7	9.5
26.2	21.6	23.0	27.5	29.4	35.0	37.4	42.5	42.5
-5.5	-7.2	-6.8	-9.0	-6.0	-0.7	2.5	3.0	-9.0
65	71	65	56	54	49	45	47	54
9	9	12	12	11	12	14	13	11
80	84	87	86	90	86	97	84	86
96	95	110	95	110	102	111	111	119
37	34	28	12	22	17	18	21	28.7
6	8	5	3	6	4	5	4	5.8
2	6	7	5	2	0.3			22.3
0.1	0.1	0.1	0.1	0.3	0.2	0.2	0.1	1.7

測 候 所 ; Trelew

西 經 ; 65° 18'

		单 位	1 月	2 月	3 月	4 月
氣 温	平 均	℃	20.7	19.9	17.6	12.8
	最 高 平 均		28.4	27.3	25.5	19.8
	最 低 平 均		13.7	13.1	11.0	6.9
	最 高		40.0	39.3	39.1	29.5
	最 低		5.1	2.5	-1.4	-2.7
湿 度	平 均	%	37	43	48	56
風 速	平 均	Km/時	23	21	18	18
	最 高 平 均		122	100	89	90
	最 高		148	110	94	108
雨 量	平 均	mm	13	20	15	13
	平 均 降 雨 日 数		5	4	4	4
降 霜	平 均 降 霜 日 数				0.1	1
降 雹	平 均 降 雹 日 数			0.1	0.2	
降 雪	平 均 降 雪 日 数					

南 緯 ; 43° 14'

標 高 ; 39 m

5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	年 間
9.5	5.4	6.1	7.8	10.0	13.8	17.5	19.3	13.4
15.6	11.1	12.0	14.9	16.8	21.4	26.0	27.0	20.4
4.5	1.0	1.5	2.4	3.9	6.8	10.5	12.7	7.3
26.7	21.4	24.8	27.4	31.3	34.2	37.6	39.8	40.0
-10.7	-8.8	-10.8	-8.6	-8.0	-2.2	-1.0	-3.5	-10.8
63	72	64	54	49	43	38	39	51
18	17	21	20	21	22	26	26	21
81	99	93	119	103	100	113	109	101
92	144	112	148	115	125	130	130	148
20	16	12	11	12	11	17	19	179
6	8	6	5	5	4	4	5	60
5	12	13	10	5	1	0.1		47.2
	0.1			0.6	0.1	0.5	0.4	2

気 象 統

測 候 所 ; Camarones

西 経 ; 65° 42'

		单 位	1 月	2 月	3 月	4 月
気 温	平 均	℃	18.0	18.4	16.3	12.2
	最 高 平 均		24.3	24.8	22.5	17.5
	最 低 平 均		13.1	13.3	11.1	7.6
	最 高		39.0	38.0	38.0	28.0
	最 低		5.8	2.8	2.2	-0.6
	湿 度					
	平 均	%	56	56	54	62
風 速	平 均	Km/時	22	22	20	19
	最 高 平 均		76	76	75	81
	最 高		95	95	95	81
雨 量	平 均	mm	10	13	18	20
	平 均 降 雨 日 数		4	3	5	5
降 霜	平 均 降 霜 日 数					0.1
	平 均 降 雹 日 数		0.3	0.2	0.1	0.8
降 雪	平 均 降 雪 日 数					

計 表

資料 4

南 緯 ; 44° 49'

標 高 ; 34 m

5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	年 間
9.9	7.0	6.5	8.4	9.3	12.2	15.6	16.6	125
14.3	11.1	10.8	13.2	14.8	18.3	21.8	22.6	180
5.5	2.8	2.3	3.6	4.4	7.1	10.5	12.4	7.8
26.2	24.5	19.5	24.8	25.7	31.6	34.2	32.4	39.0
-7.5	-3.5	-7.5	-3.5	-2.8	-2.0	-1.0	4.0	-7.5
65	69	68	58	57	54	50	56	59
19	19	20	21	21	22	29	26	22
76	83	78	92	81	88	89	90	82
81	125	95	97	95	110	110	110	125
24	37	18	8	8	4	7	13	180
7	10	7	4	4	3	3	4	59
6	4	7	3	2	0.4	0.1		22.6
0.4	0.2	0.6	0.9	0.9	0.4	0.2	0.2	7.0

